

## 令和5年度人権問題についての意識調査の概要

1.調査対象 日南町に住民登録をされている18歳以上の全ての者 3,685人（令和5年12月10日現在）

2.回答状況 宛先不明等で返送された者を除く3,662人のうち1,192人の回答

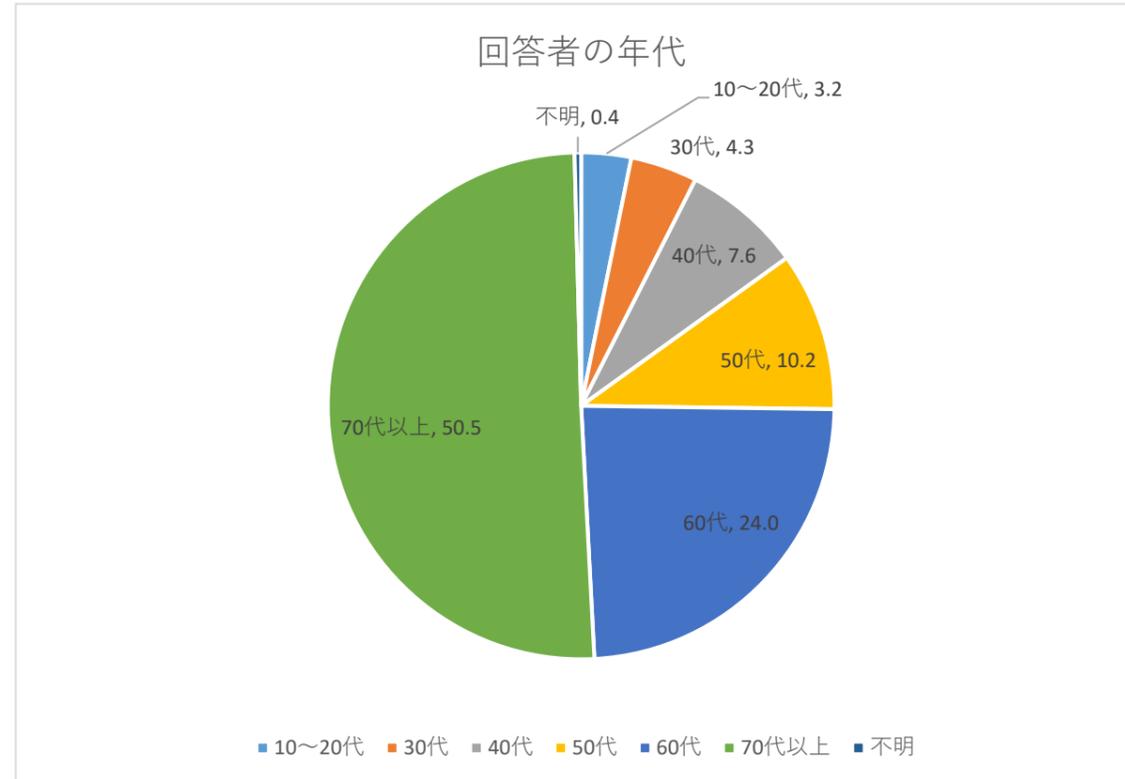
3.回答率 32.6%

※グラフの数字の単位は、すべて%です

回答者の年代

（本文P.1）

○70代以上の回答者が一番多く、10代～20代の回答が一番少ない結果。

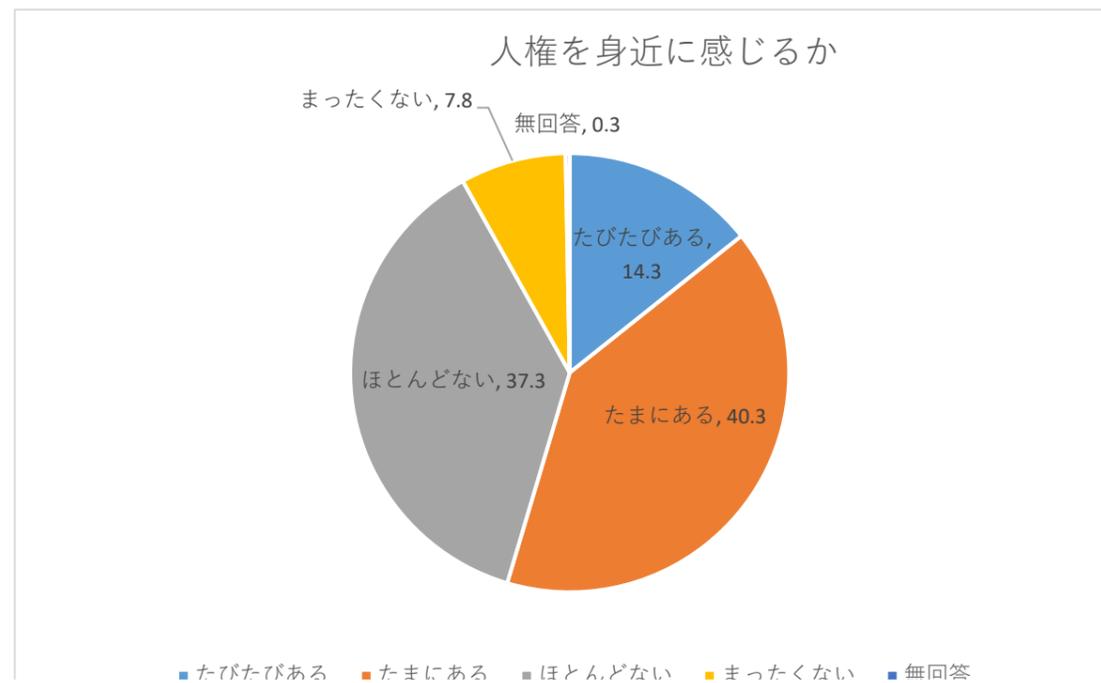


### （1. 人権全般・習慣について）

Q.1 「人権」について、身近な問題として感じたことがあるか。あてはまるものを1つ選択

（本文P.2）

○「ある」という回答が一番多い。（54.6%）

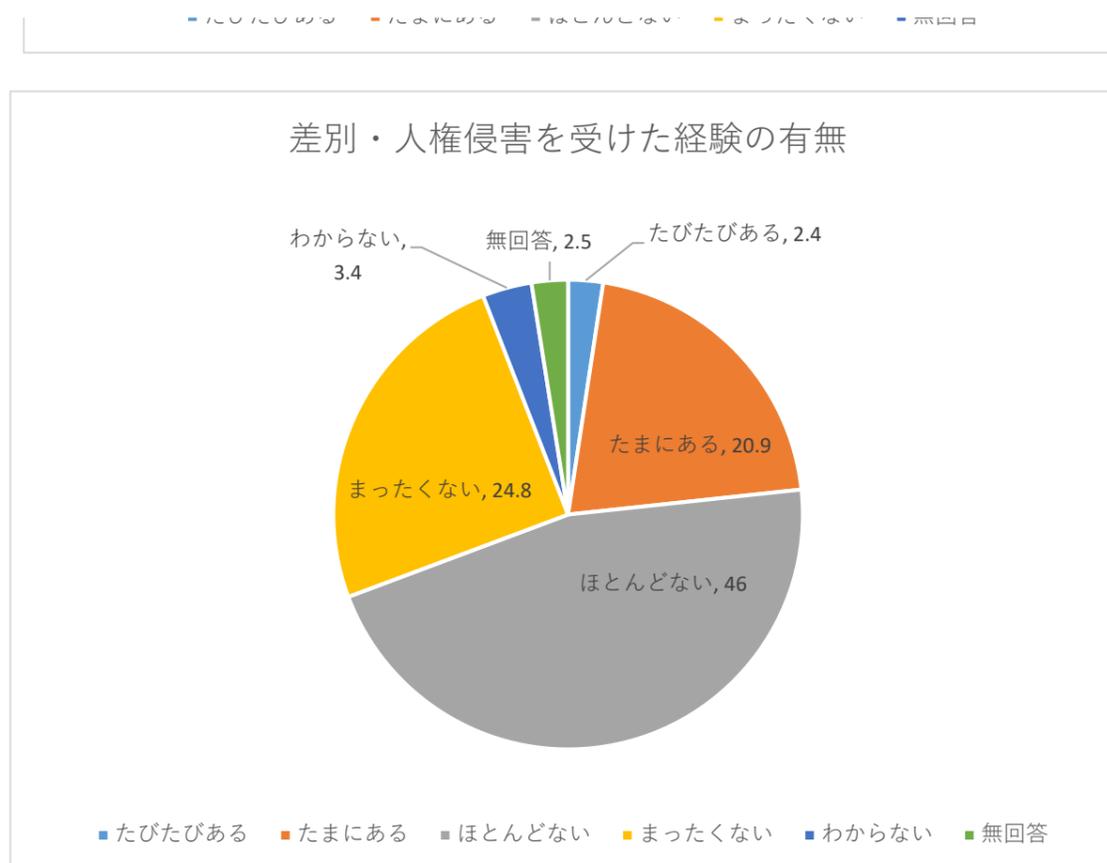


Q2. 日常生活の中で自分自身が差別や人権侵害を受けたことがあるか。

あてはまるものを1つ選択

(本文P.4)

○「ない」という回答が一番多い。(70.8%)

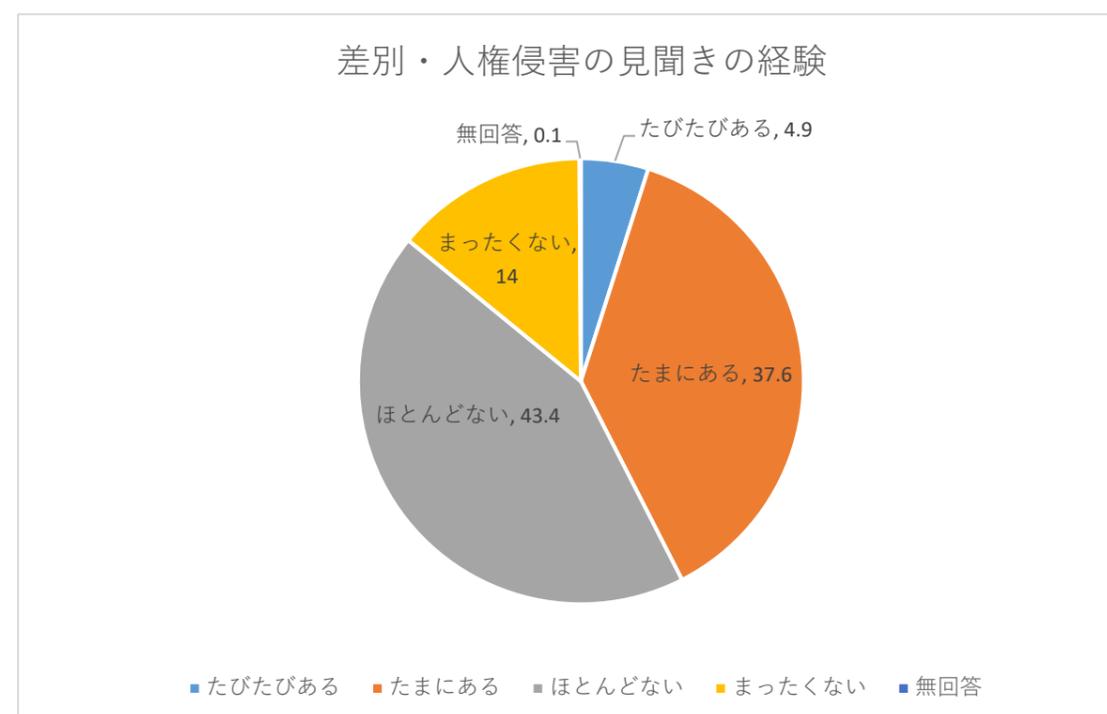


Q2-② 日常生活の中で他人が差別や人権侵害を受けたのを見たり聞いたりしたことがあるか。

あてはまるものを1つ選択

(本文P.6)

○「ない」という回答が一番多い。(57.4%)



今回の調査では、前回と比較して人権を身近に感じる人が大きく減り、身近なものになっていない人が増えている結果となった。

これは、社会全体が人権を大切にしよう変化してきた成果と見る一方で、無関心が広がっている可能性もある。

また、前回調査より、見聞きの経験がある人が増加しており(9.5ポイント増)、これは差別等の増加によるものか、人権意識が高まり差別を見抜く力をつけた人が増加したのか、今後の状況を注視していく必要がある。

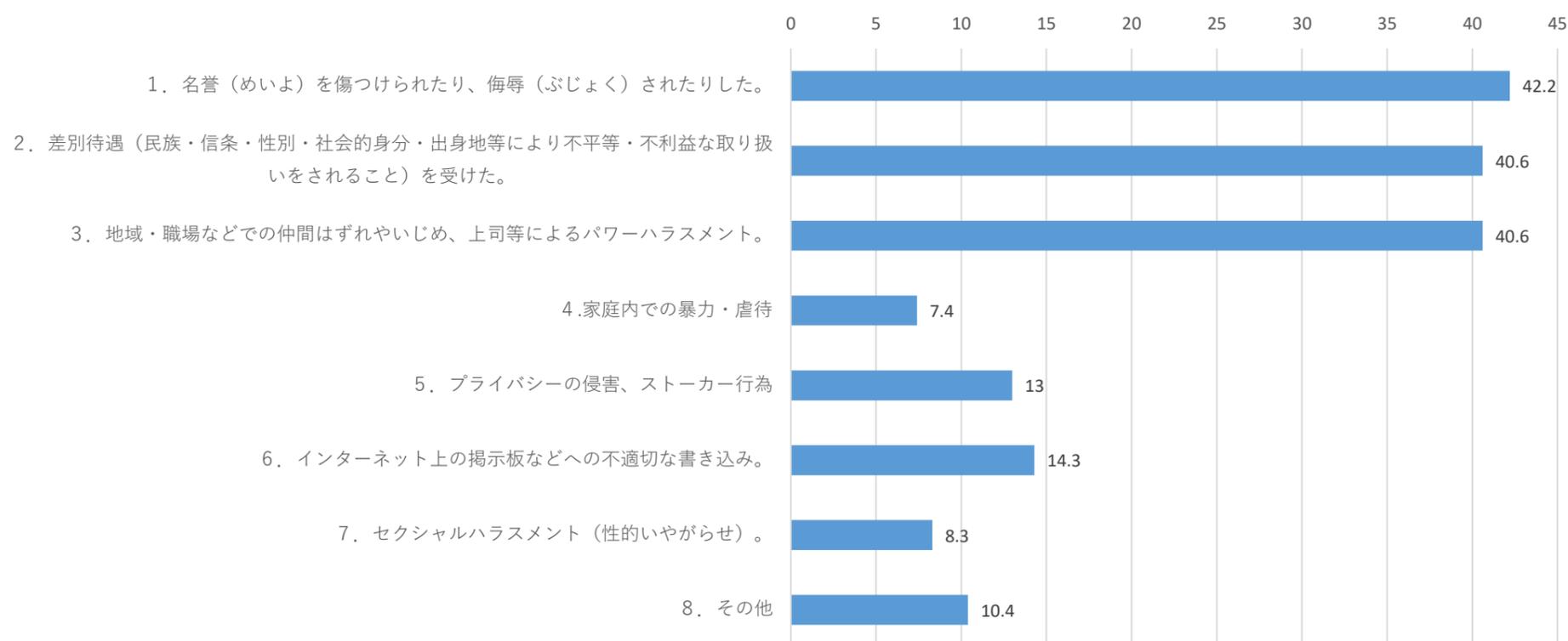
Q.2-③ 見聞きした差別や人権侵害はどのような内容だったか。あてはまるものすべて選択。

(本文P.7)

○「1.名誉を傷つけられたり、侮辱されたりした。」が一番多く、「2.差別待遇を受けた」、「3.地域等で仲間はずれやいじめ、パワハラを受けた」と続く。

前回の調査では、「3.」が一番多く、「1.」と続いた。

経験・目撃した差別・人権侵害の内容（複数回答）



Q.3 日南町内において、人々の意識の中の差別や偏見、あるいはこだわりがあると思われるものはどれか。あてはまるものをすべて選択。

(本文P.9)

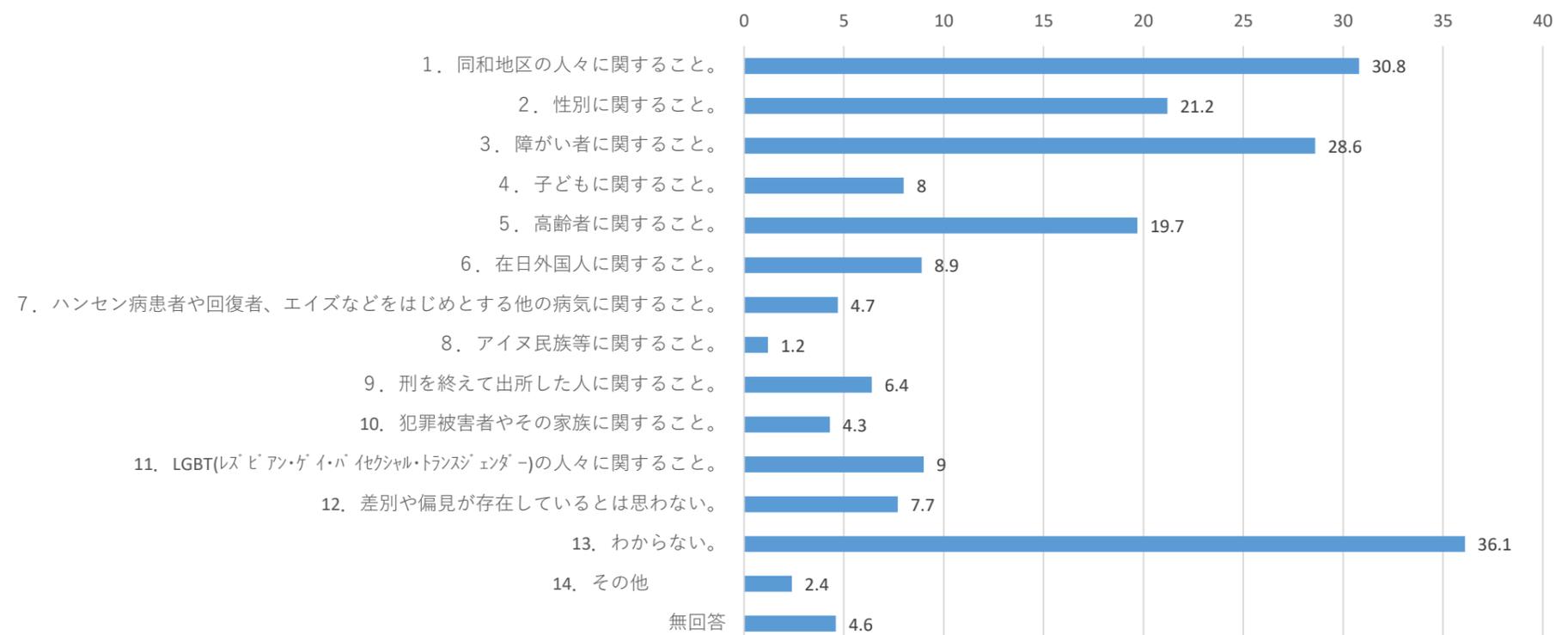
○「13.わからない」という回答が一番多く、前回調査結果より、急増した結果となった。（23.6ポイントの増加）

次いで「1.同和地区の人々に関すること。」に続く。

前回の調査では、「1.」が最多であった。

依然として町民の多くが「部落差別」の存在を認識しているという結果となった。

意識に存在している差別や偏見（複数回答）



Q.4 人権問題について理解を深め、人権意識を高めるためには、今後どのような取り組みを行えばよいと思うか。

3つ以内で選択。

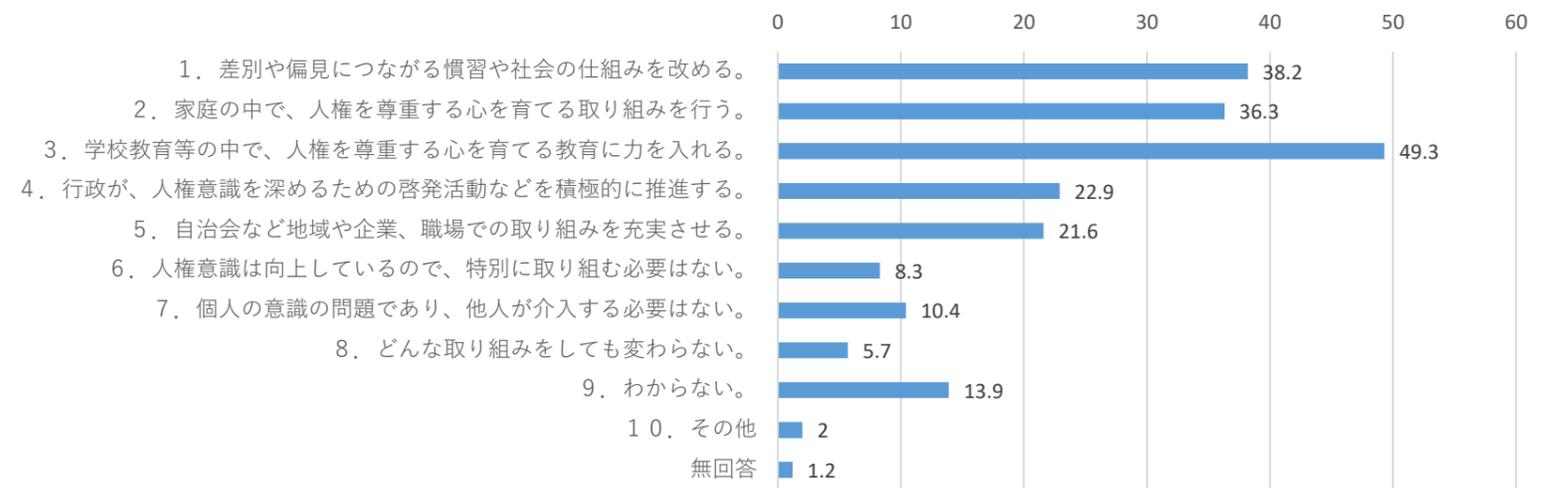
(本文P.11)

○「3.学校教育の中で・・・。」という回答が一番多い。

前回調査と同様に一番多くの人を選んでいる。

次いで、「1・・・慣習や社会の仕組みを改める。」が続  
き、人権問題は、慣習等を改めるとともに、学校教育・社  
会教育・家庭教育で取り組むことの重要性が認識されてい  
る。

人権意識を高めるための取り組み（複数回答）



(2.教育・啓発活動について)

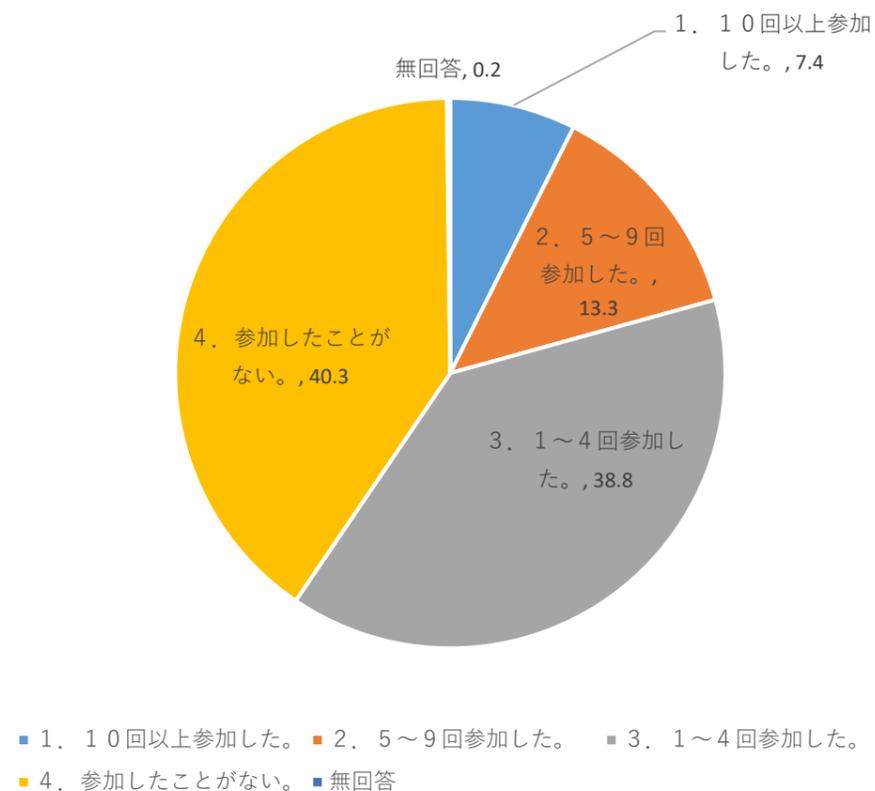
Q.5-① 過去5年間に人権問題についての講演会等への参加回数。あてはまるものを1つ選択

(本文P.13)

○「4. 参加したことがない」について、過去3回の調査結果の推移を見ると、増加傾向にある。

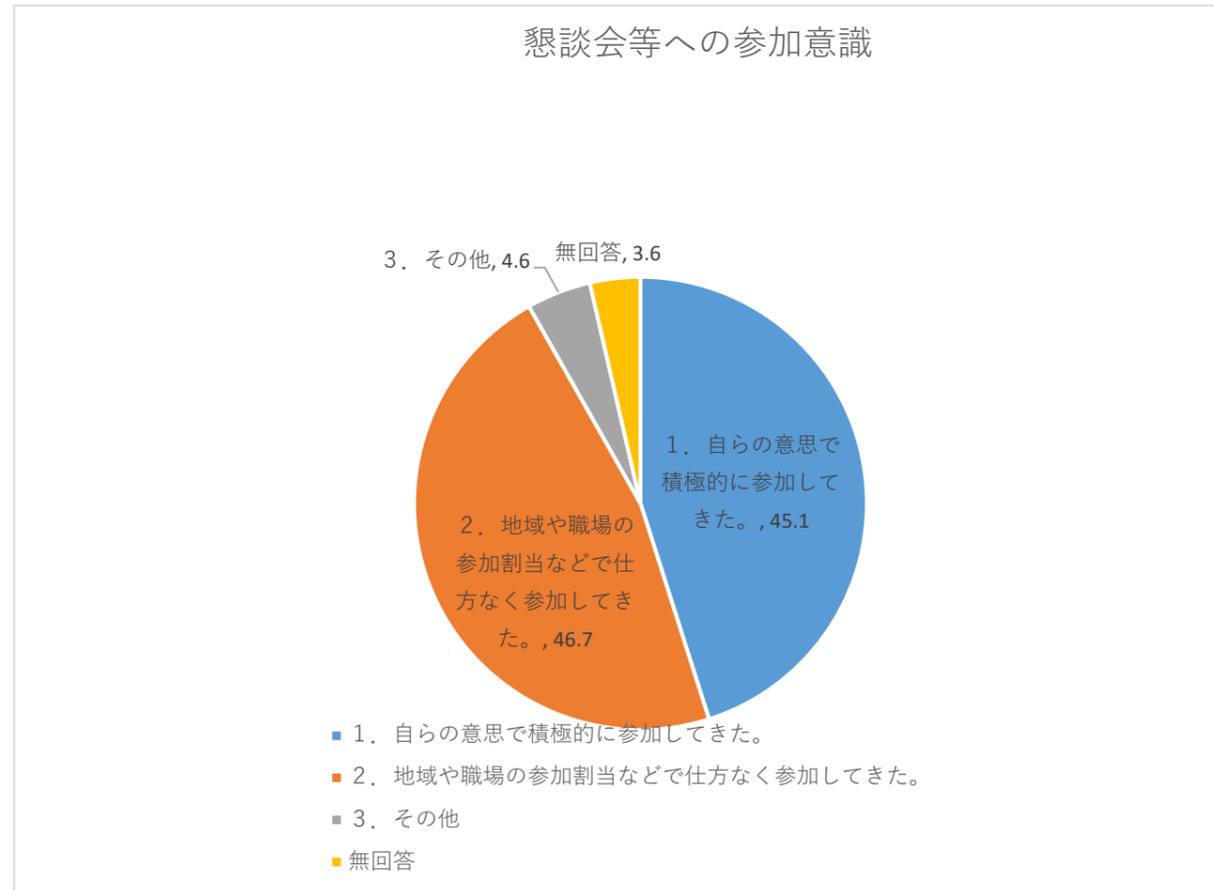
この結果については、危機感をもって対応に臨む必要がある。

懇談会等への参加回数



Q.5-② 参加したとき、どのような意識で参加をしたか。あてはまるものを1つ選択  
(本文P.15)

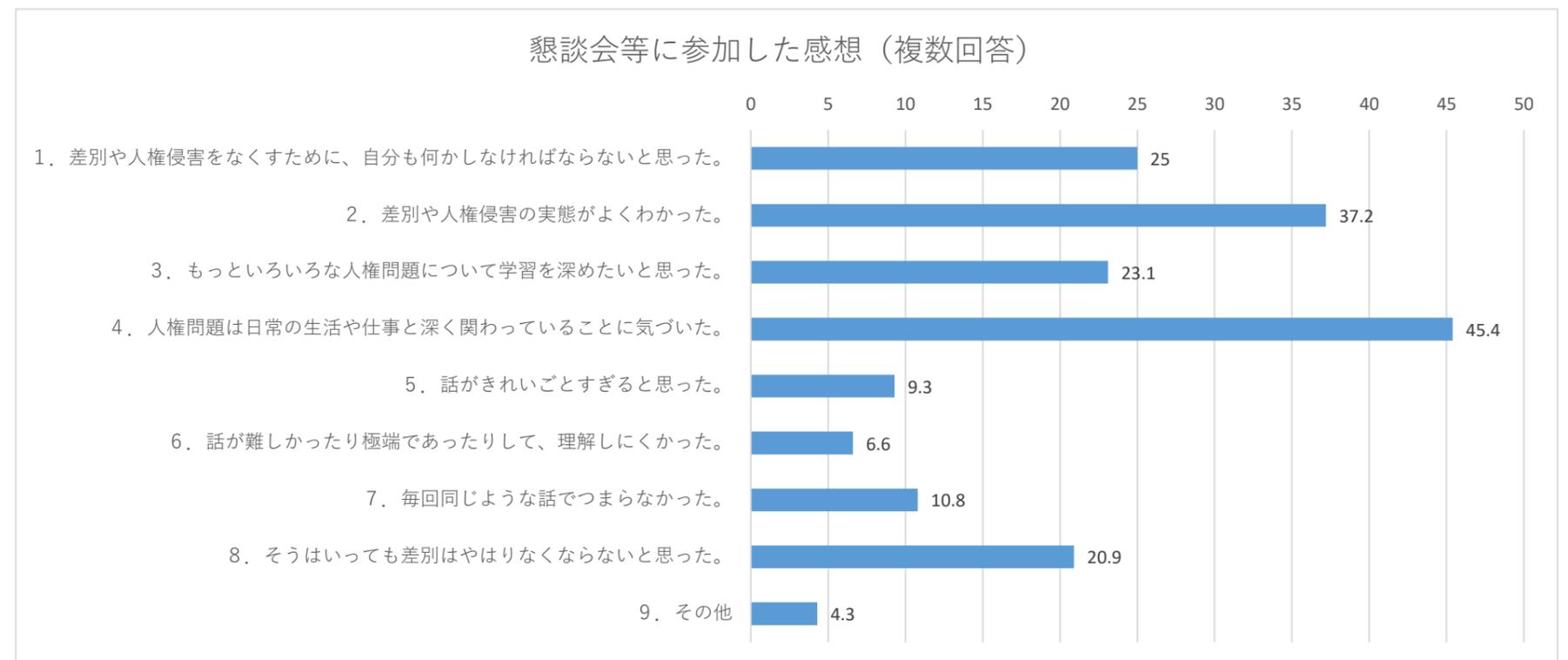
○積極的に参加して下さる方が増えることを期待したい。



Q.5-③ 参加したときの感想。考えに近いものをすべて選択  
(本文P.16)

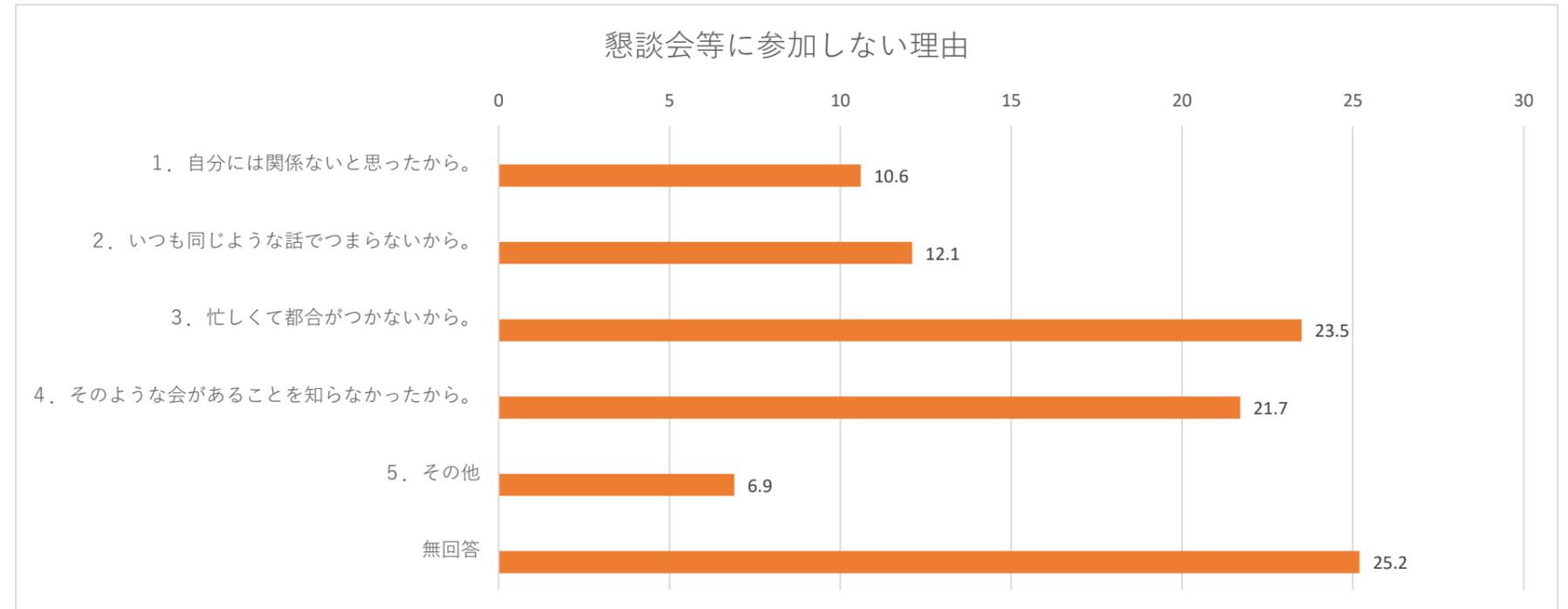
○「4.人権問題は日常の生活や仕事と深く関わっていることに気づいた。」という回答が一番多い。

人権問題は、わたしたちの暮らしに深く関係している。その暮らしをよりよくするためにも、引き続き懇談会等を行ない、啓発に努める。



Q.5-④ 「参加したことがない」、その理由。あてはまるものを1つ選択  
(本文P.17)

○「4.そのような会があることを知らなかったから。」という回答を減らしていくために、今後も引き続き様々な機会を利用してさらなる周知を図っていく。

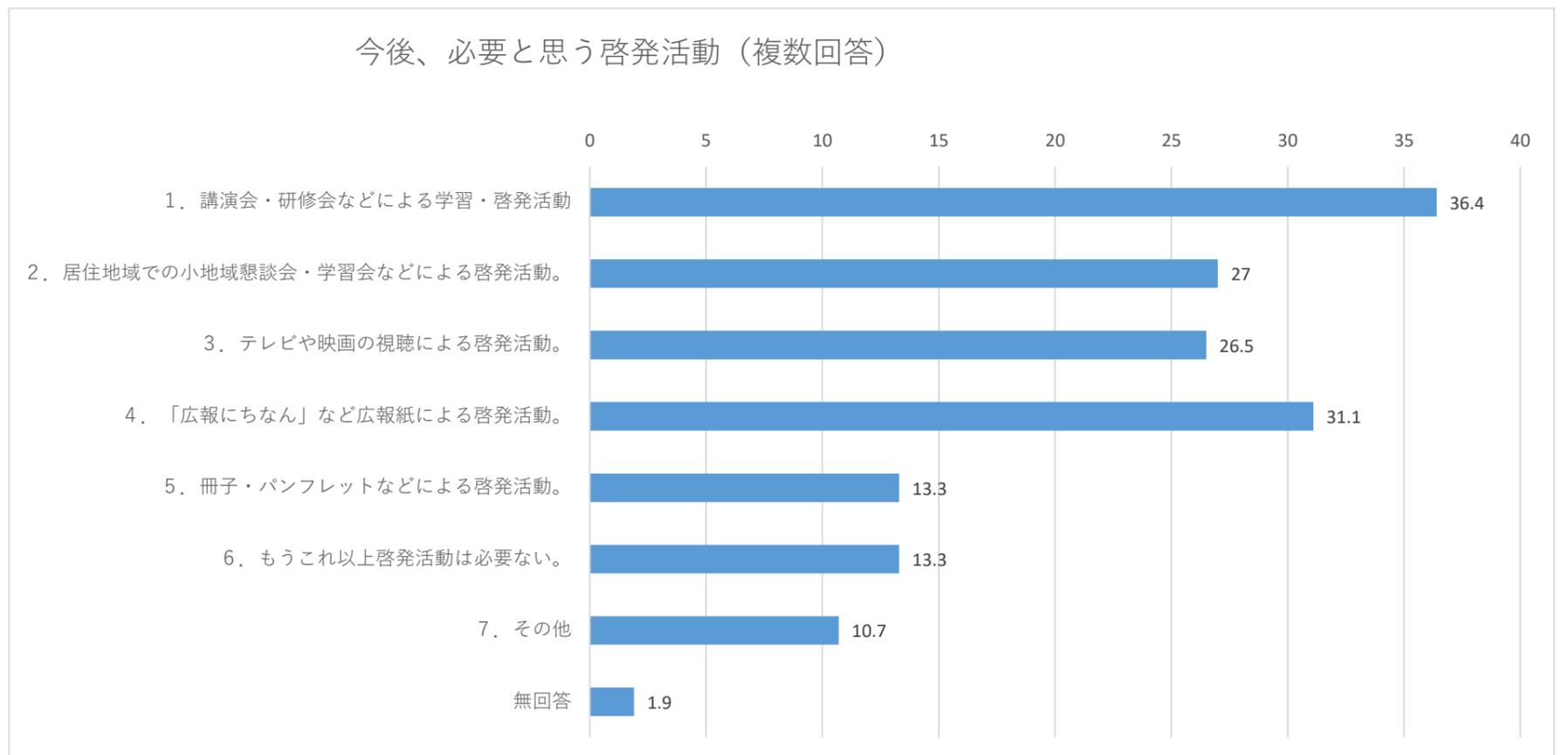


Q.6 人権問題について理解を深めるために、日南町としては今後、どのような啓発活動を行えばよいと思うか。あてはまるものをすべて選択  
(本文P.19)

○「1.講演会・研修会などによる学習・啓発活動」という回答が一番多い。

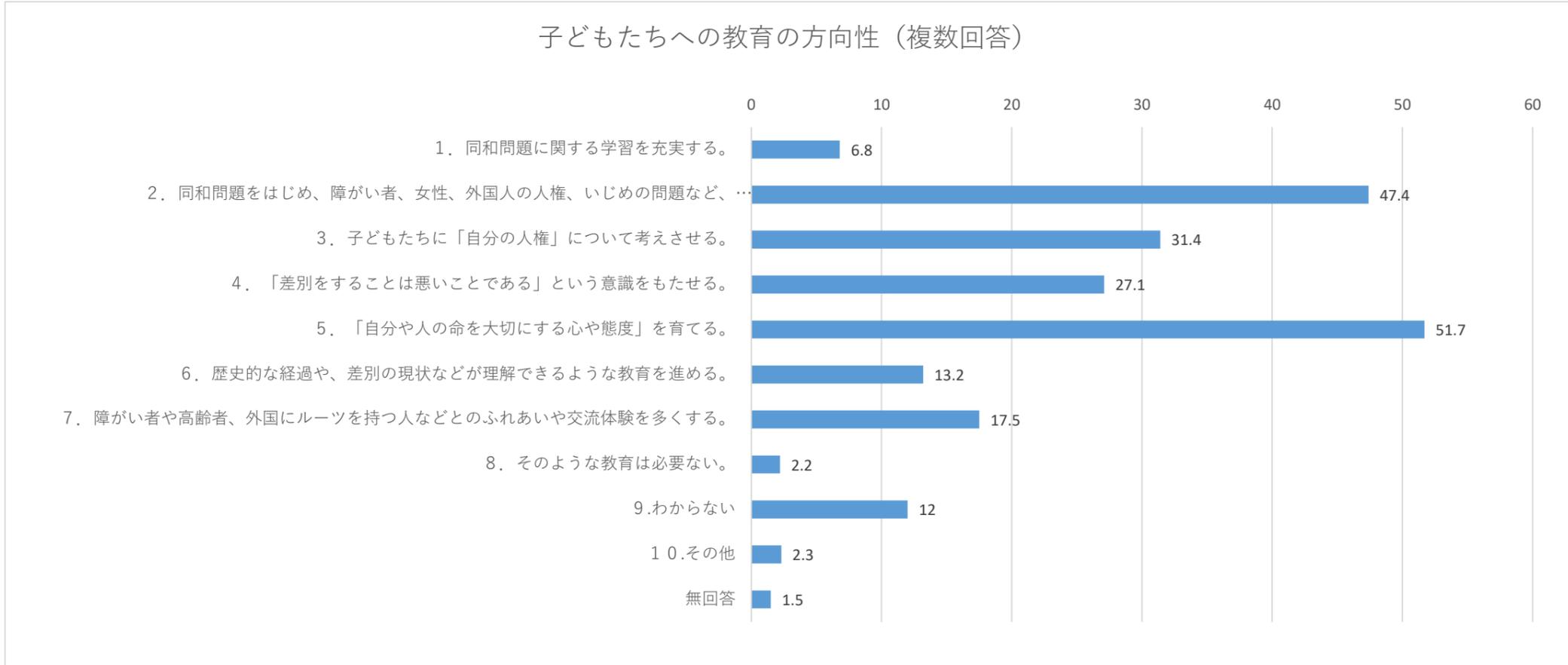
また、「7.その他」として、「子どもと大人と一緒に学習できる機会」という意見があった。

一方で「6.もうこれ以上啓発活動は必要ない。」と答えた人が前回調査から半減しており、啓発の重要性への理解が進んできていると考えられる。



Q.7 人権を尊重する心や態度を育てるために必要な、子どもたちへの教育の内容について。特に進めるべきだと思う項目を3つ以内で選択 (本文P.21)

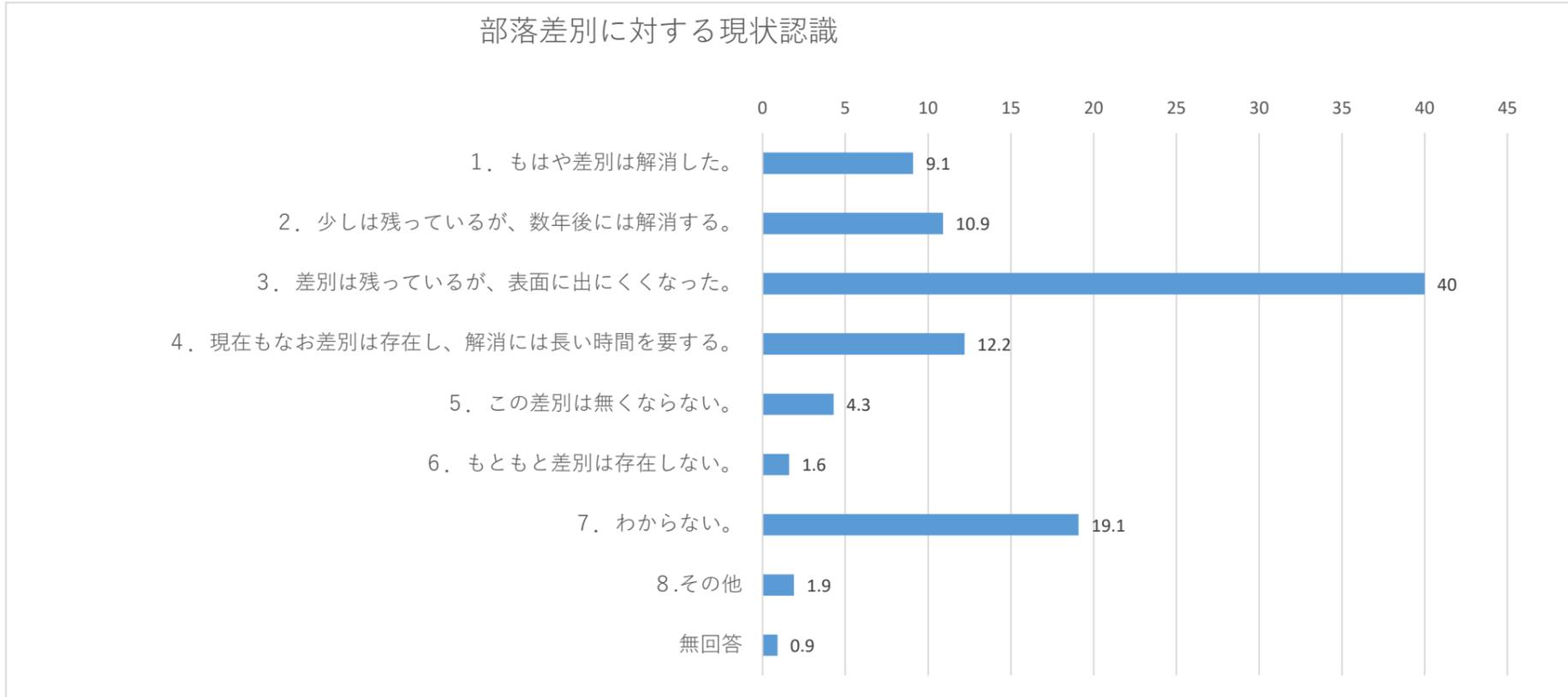
○前回調査と同様に、「5.『自分や人の命を大切にする心や態度』を育てる」が一番多くの人を選んで



**(3.同和問題について)**

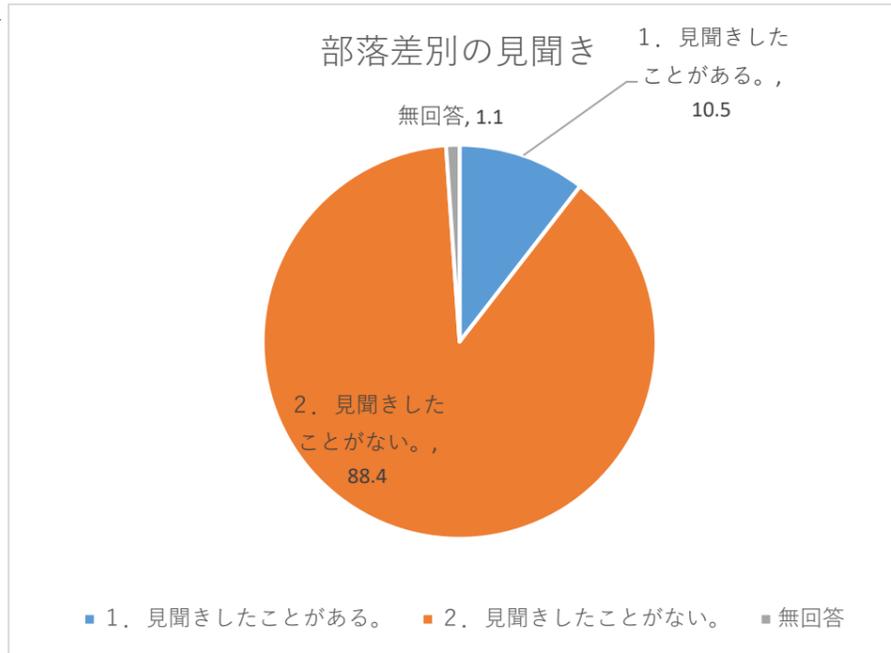
Q.8 現在、同和地区の人に対する差別は無くなったと思うか。考えにいちばん近いものを1つ選択 (本文P.23)

○「3.差別は残っているが、表面に出にくくなった。」という回答が一番多い。「7.わからない」という回答が19.1%あり、この回答を深刻に受け止め、またこの数値は決して少ない数値ではないと、認識している。



Q.9-① 過去5年間で同和地区の人々に対する差別的な発言や行動を直接見聞きしたことがあるか。あてはまるものを1つ選択 (本文P.26)

○「1.見聞きしたことがある」人は、前回調査より減少傾向にあるが、継続して10%以上の人が見聞きした、という結果となった。



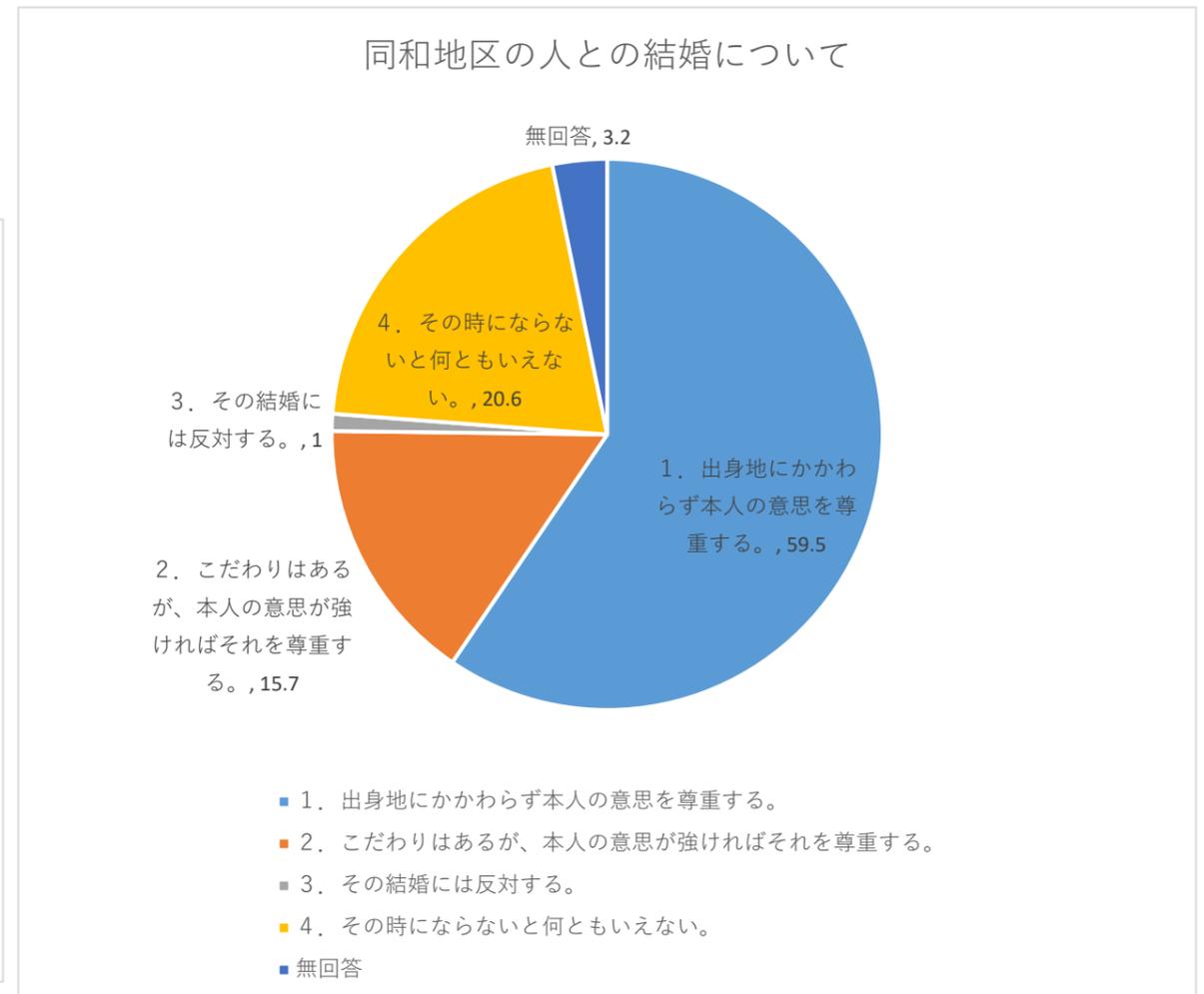
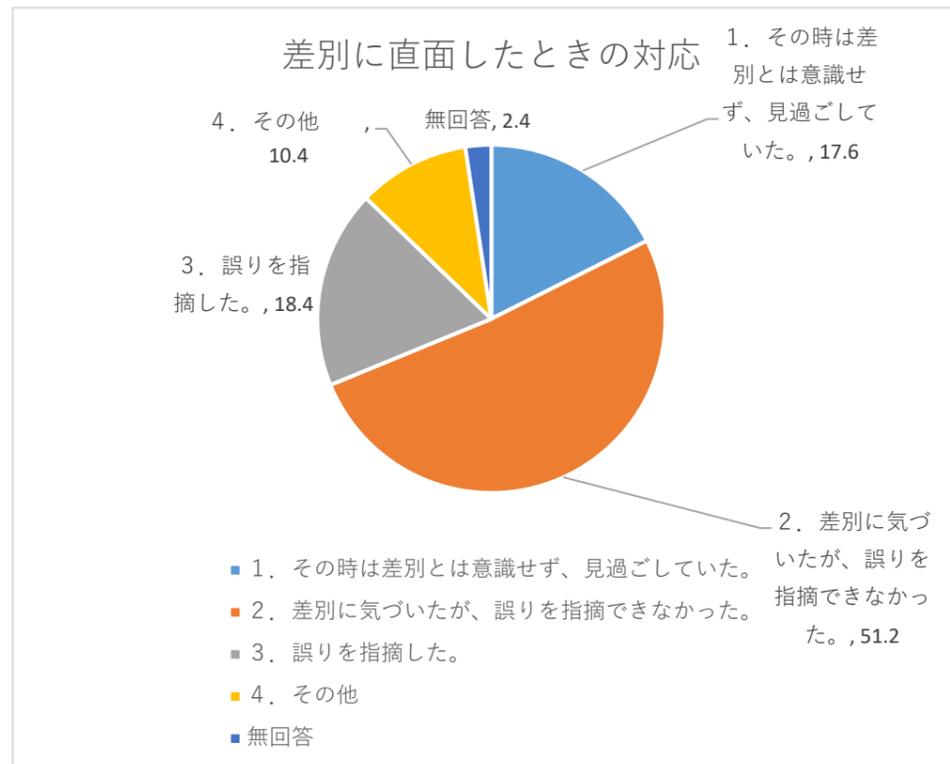
Q.10 家族や親せき等の人が結婚するとき、相手の人が同和地区の出身とわかった場合、どうするか。考えに近いものを1つ選択 (本文P.29)

○「結婚を許す」という回答が一番多い。(75.2%)  
「4.その時にならないと何ともいえない。」という回答は、差別を容認(「消極的に結婚を反対」)することにつながりかねない。

Q.9-② 見聞きした際、その時、どうしたか。あてはまるものを1つ選択 (本文P.27)

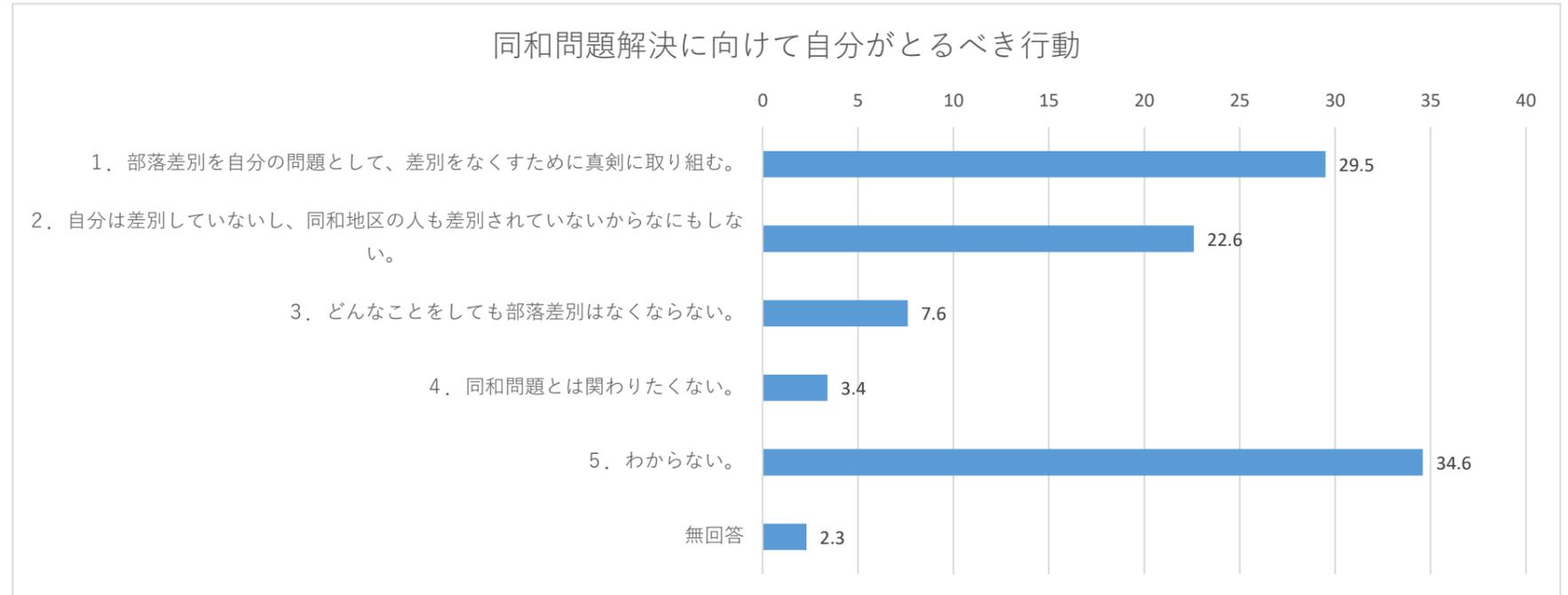
○「2.差別に気づいたが、誤りを指摘できなかった。」という回答が一番多い。

人権・同和教育が目指すところは差別を見抜き、差別に負けない力を身に付けるとともに、一人一人が行動を起こして、差別的な周りの状況を変えていく力を養うことにある。



Q.11 同和問題解決のために、自分自身がとる行動は。  
 あてはまるものを1つ選択  
 (本文P.32)

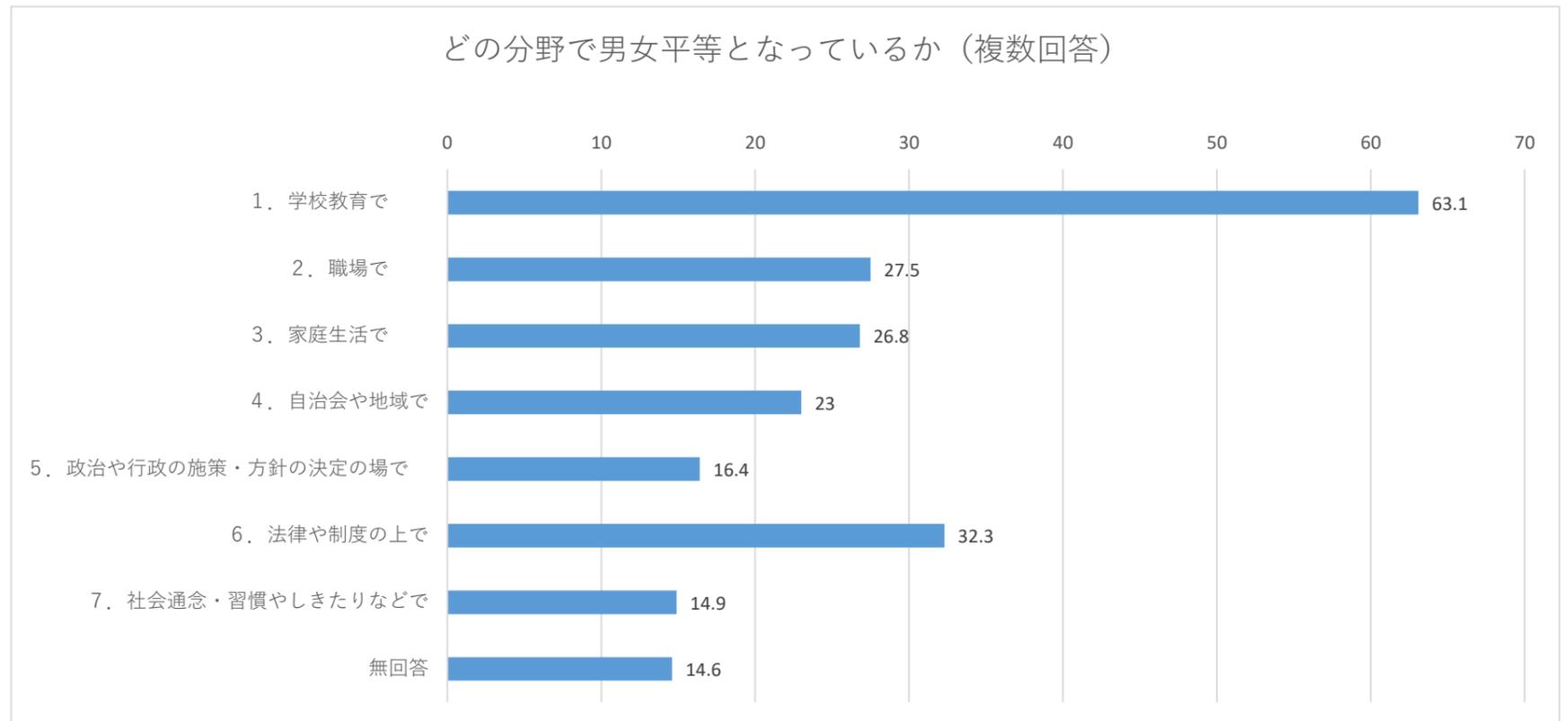
○「5.わからない」という回答が一番多い。  
 同和問題を解決するためには、一人一人が行動を起こさなければならない。「わからない」という回答を少しでも減らしていくよう、全ての町民に対して引き続き啓発を行っていく必要がある。



(4. 男女平等について)

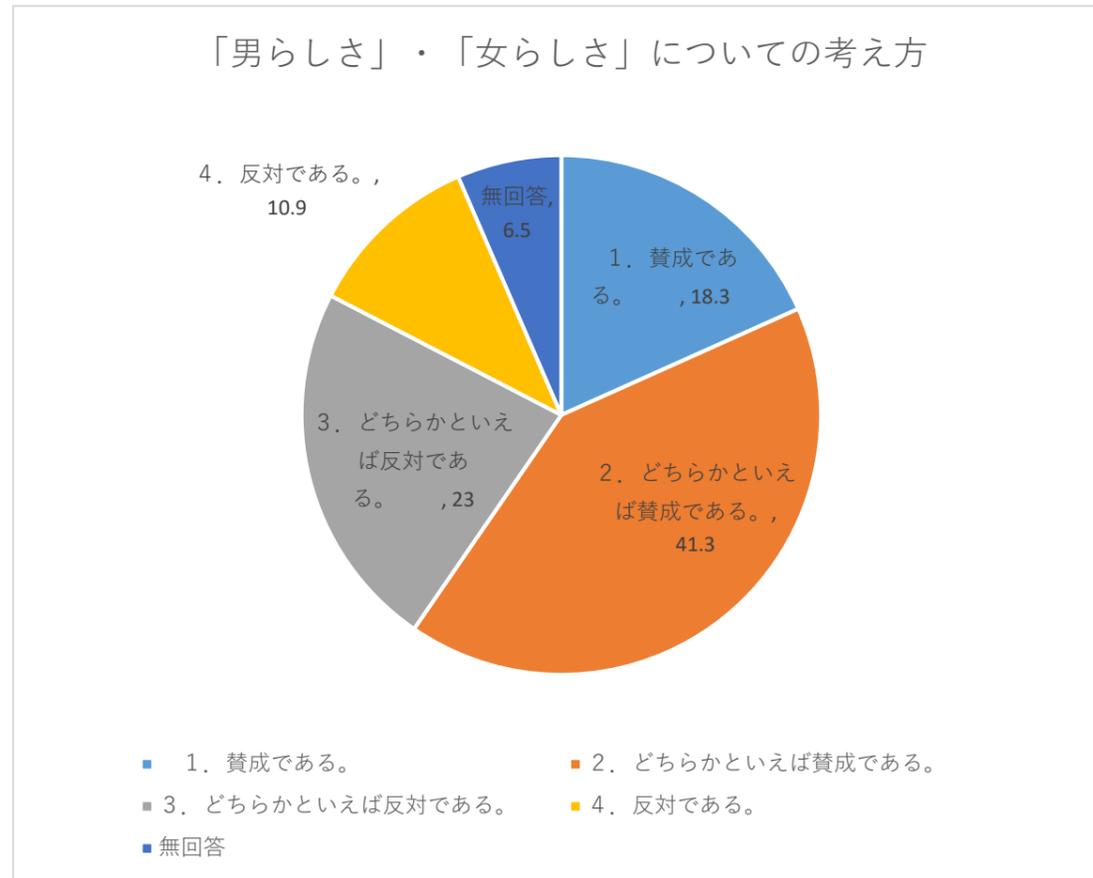
Q.12 どの分野で男女の地位は平等になっていると思うか。  
 平等になっていると思うものをすべて選択  
 (本文P.35)

○「無回答」という回答が14.6%だった。無回答の理由として、回答の選択肢に「わからない」といった項目が無かったほかに、質問の逆として「男女平等にはなっていない」と考える人が存在したのではないかと考える。



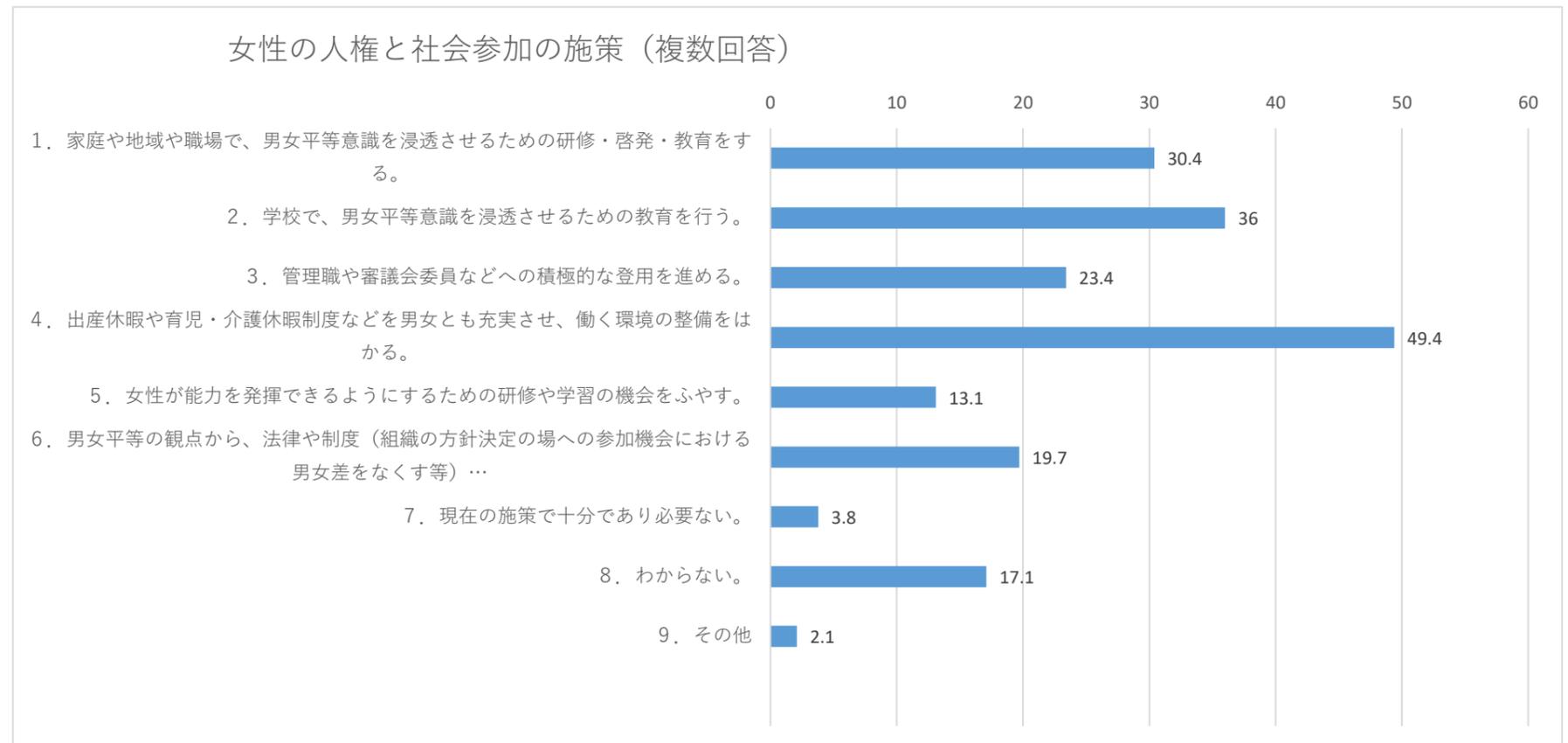
Q.13 「男らしさ、女らしさ」という考え方があることについて、どのように考えるか。  
 あてはまるものを1つ選択  
 (本文P.36)

○「賛成である」という回答が一番多い (59.6%)。  
 性差による役割分担にこだわる人が多い、と感じられる。



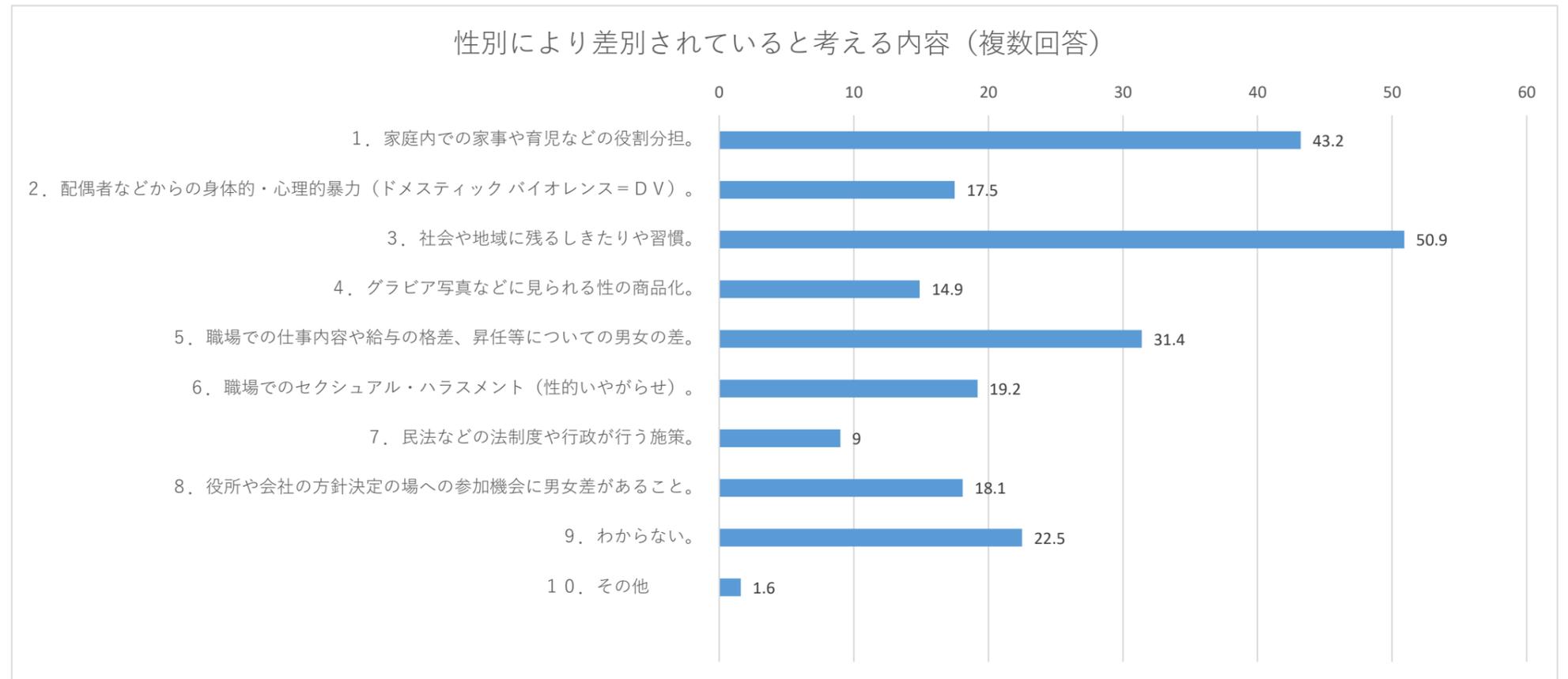
Q.14 女性の人権が尊重され、女性の社会参加をすすめるためには、行政の施策としてどのようなことが重要だと思うか。  
 3つ以内で選択  
 (本文P.38)

○「4.出産休暇や育児・・・。」という回答が一番多い。これは前回調査と同様であった。  
 出産や育児・介護における女性の負担を軽減することの必要性を多くの人が感じていることを表している。



Q.15 性別により差別されたり人権侵害を受けたりしている場面は、どのような場面か。  
 あてはまるものをすべて選択  
 (本文P.40)

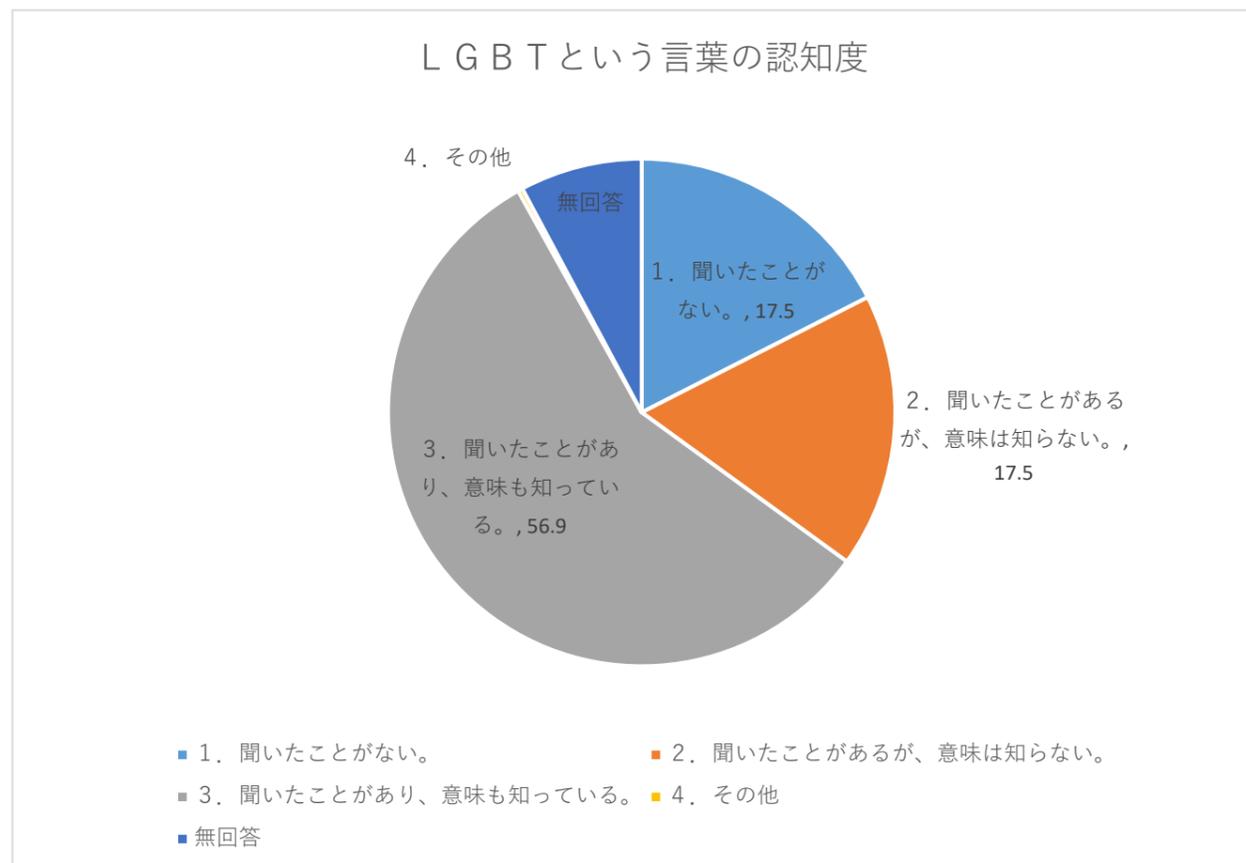
○前回の調査では、「女性」に限っていたが、今回の調査では、女性・男性を問わず「性別により」と変更した。  
 「3.社会や地域に残るしきたりや習慣。」という回答が一番多い。  
 日常生活のなかで不合理なしきたりや制度がまだ多く残っており、それを問題だと感じている人が多い、という結果となった。



**(5. LGBTの人々の人権について)**

Q.16 LGBTという言葉について、あてはまるものはどれか。  
 1つを選択  
 (本文P.42)

○今回の調査で初めて登場するもの。  
 「3.聞いたことがあり、意味も知っている」という回答が一番多い。  
 LGBTの当事者の多くがメディア等を通じて、広く自分たちの人権をアピールしたり、自らの性について語るなどで、認知度を広めていることにつながっていると思われる。



Q.17 L G B Tの人々の人権について、どう思うか。

考えに近いものをすべて選択

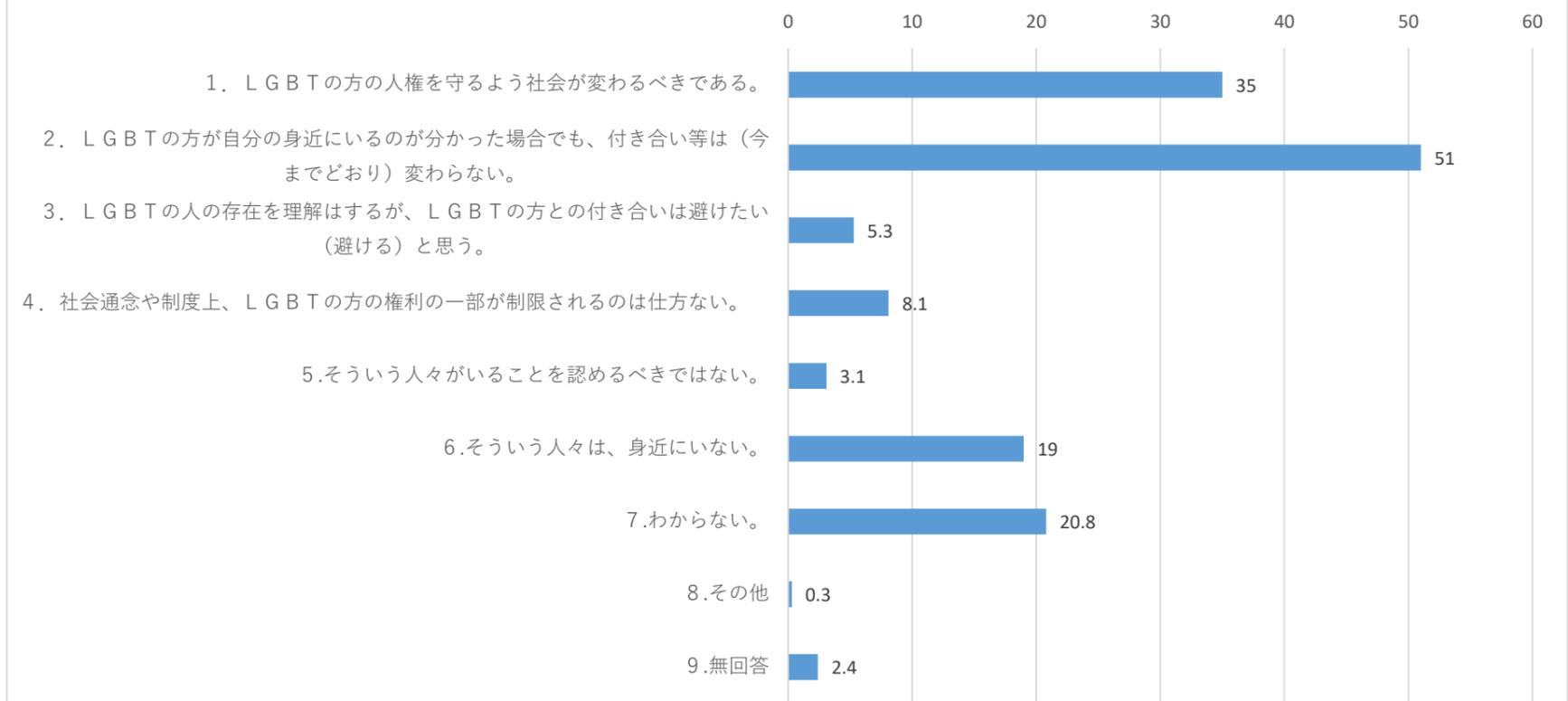
(本文P.44)

○「2.L G B Tの方が自分の身近にいるのが分かった場合でも、付き合い等は（今までどおり）変わらない。」という回答が一番多い。

次いで、「1.L G B Tの方の人権を守るよう社会が変わるべきである。」という回答に続く。

社会が変わるためには自分が変わり、周りが変わるよう働きかける必要がある。

L G B Tの人々の人権（複数回答）



Q.18 L G B Tの人々が暮らしやすい社会にするためには、どうしたらよいと思うか。

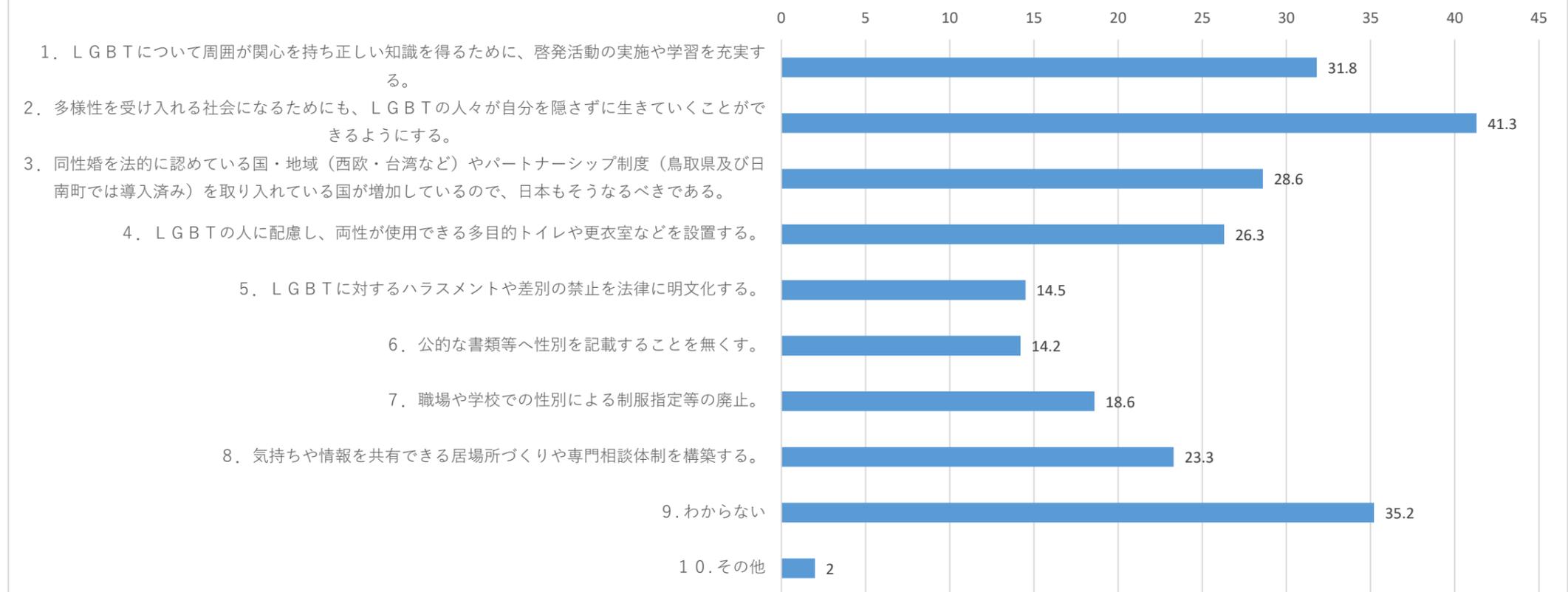
あてはまるものをすべて選択

(本文P.46)

○「2.多様性を受け入れる社会になるためにも、L G B Tの人々が自分を隠さずに生きていくことができるようにする。」という回答が一番多い。

次いで「9.わからない」という回答が続く。令和6年度の小地域懇談会のテーマは、L G B Tの人々の人権としており、5年後の調査にあたり、この結果がどのように変化したか、注視したい。

L G B Tの人々が暮らしやすい社会にするためには（複数回答）

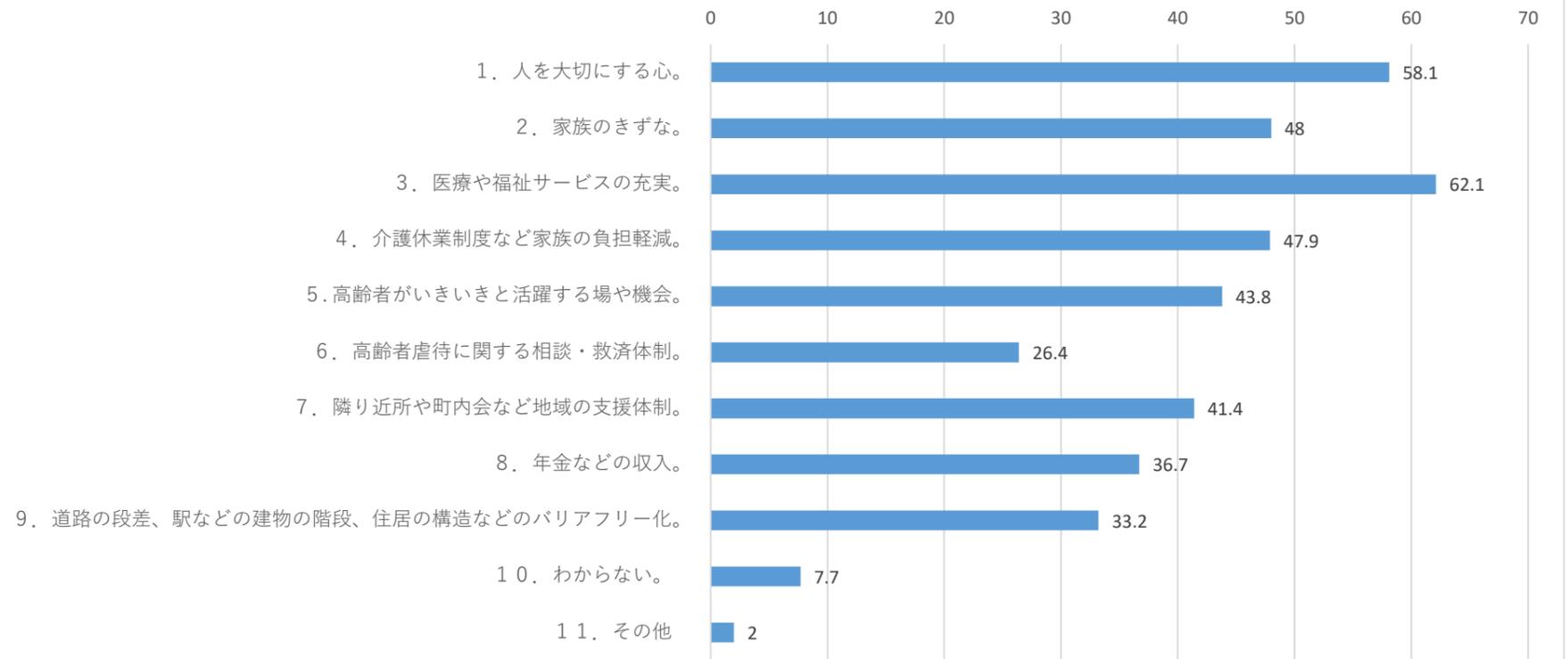


### （6. 高齢者の人権について）

Q.19 高齢者の人権を守る上で、どのようなことが必要と思うか。  
あてはまるものをすべて選択  
(本文P.48)

○「3.医療や福祉サービスの充実」という回答が一番多い。  
次いで、「1.人を大切にする心」、「2.家族のきずな」と続く。  
過去3回の調査でいずれもベスト3に入っているものは「2.家族のきずな」であった。

高齢者の人権を守る上での必要なこと（複数回答）

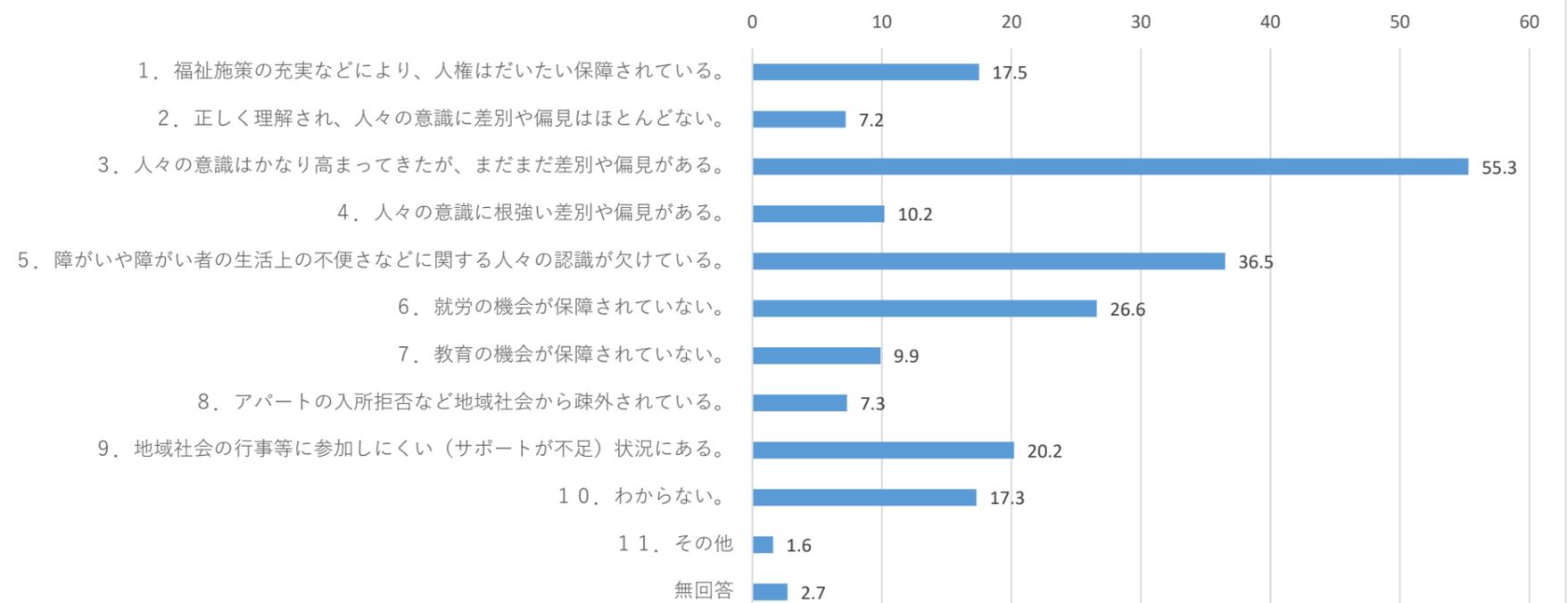


### （7. 障がいがある方の人権について）

Q.20 障がいのある方の人権について、どのような状況にあると思うか。  
考えに近いものをすべて選択  
(本文P.50)

○「3.人々の意識はかなり高まってきたが、まだまだ差別や偏見がある。」という回答が一番多い。  
前回の調査結果と同様だった。

障がいのある人の人権の現状（複数回答）



Q.21 障がいのある方の人権を尊重するためには、行政の施策としてどのようなことが重要だと思うか。3つ以内で選択  
(本文 P.51)

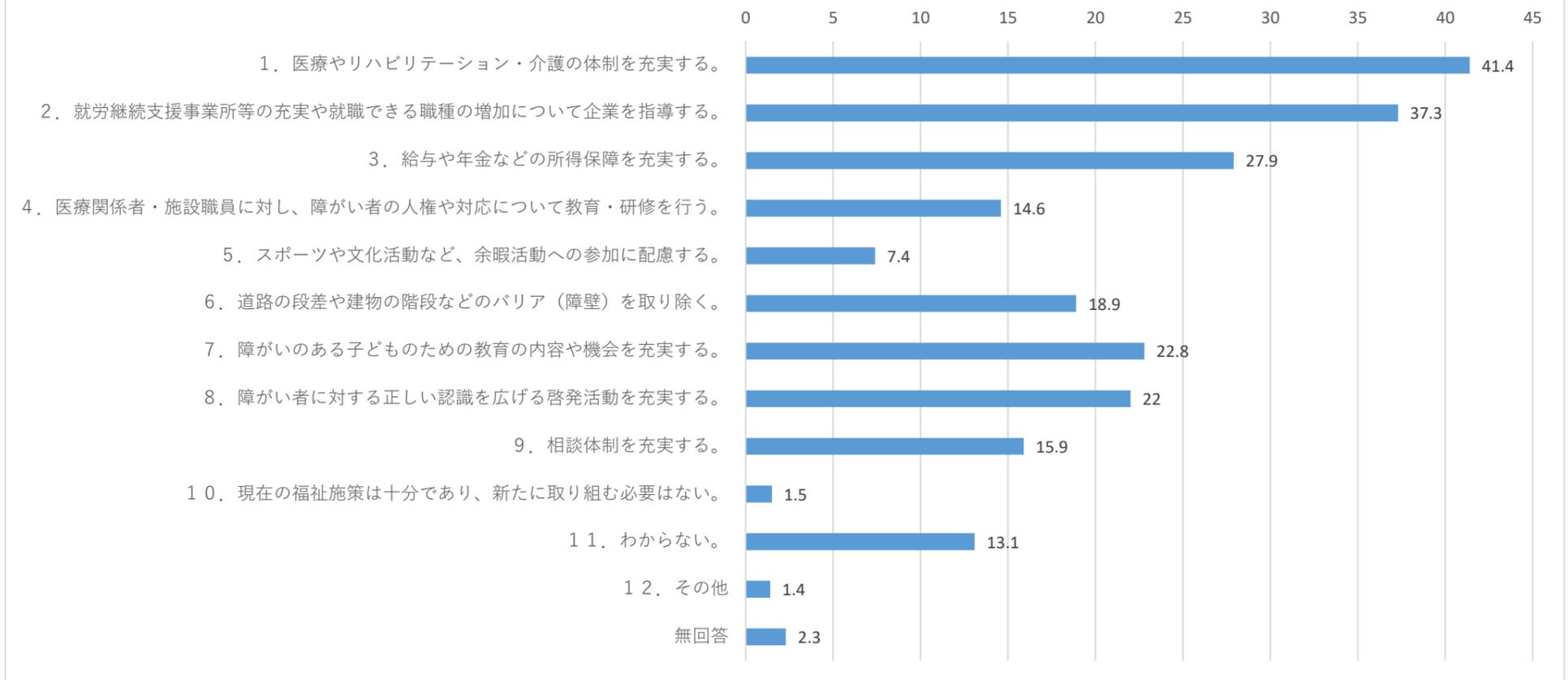
○「1.医療やリハビリテーション・介護の体制を充実する。」という回答が一番多い。  
前回の調査結果と比較して、28.4ポイント増加した。

**(8. 子どもの人権について)**

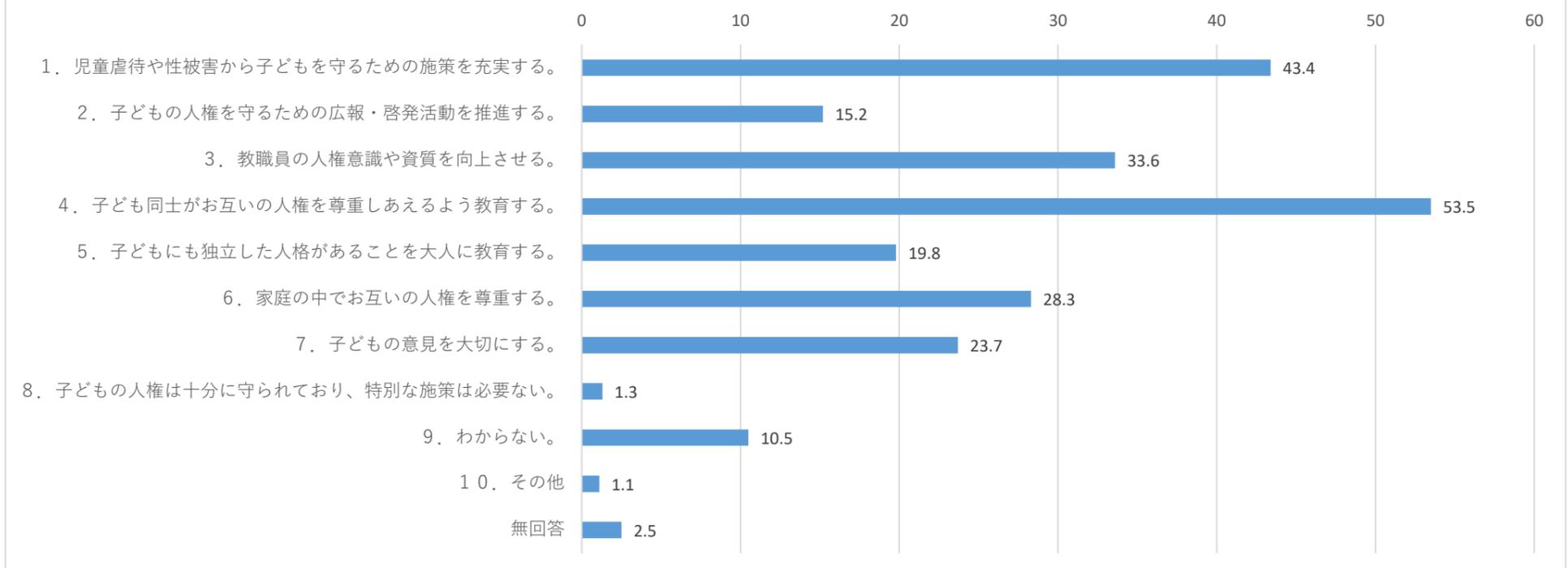
Q.22 子どもの人権を守るためにはどのようなことが必要だと思うか。3つ以内で選択  
(本文 P.53)

○「4.子ども同士がお互いの人権を尊重しあえるよう教育する。」という回答が一番多い。  
過去3年間の調査結果と同様であった。

障がいのある人の人権尊重のための行政施策（複数回答）



子どもの人権を守るために必要なこと（複数回答）



Q.23 児童虐待をなくすために必要なことはどんなことだと思うか。

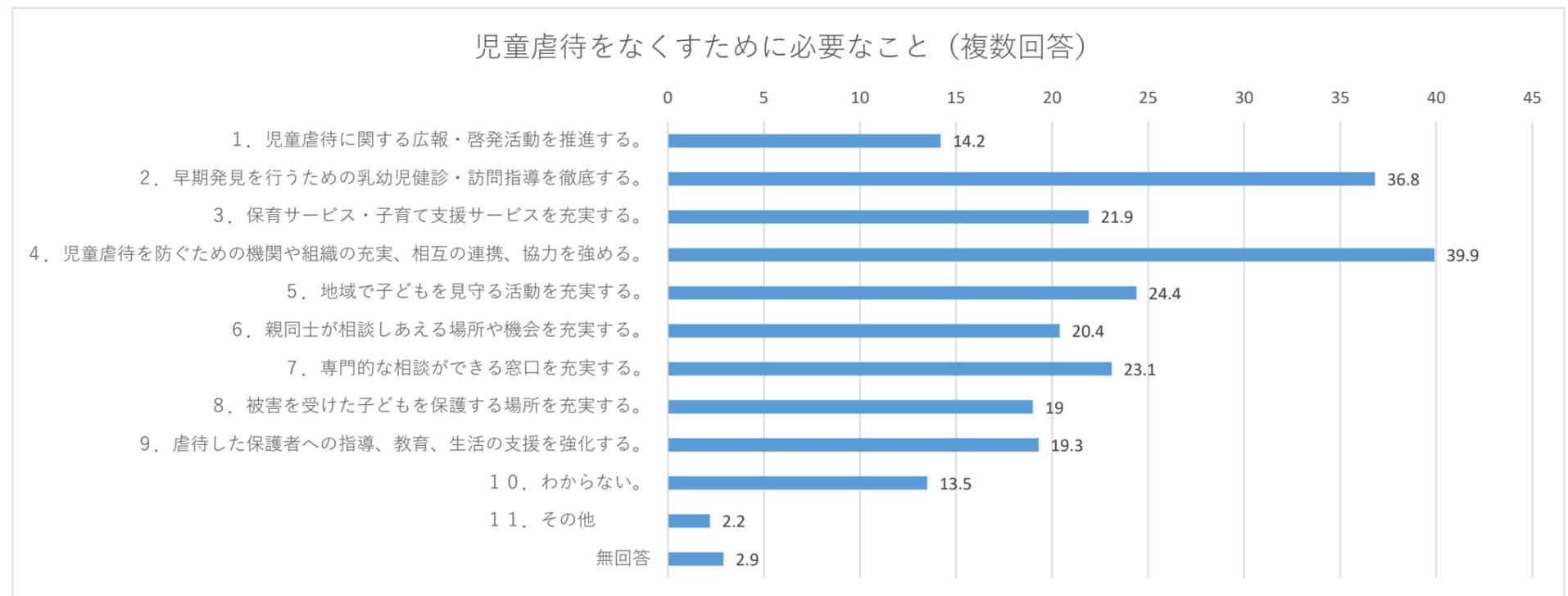
3つ以内で選択

(本文P.54)

○「4.児童虐待を防ぐための機関や組織の充実、相互の連携、協力を強める。」という回答が一番多い。

前回の調査結果と比較して、24.4ポイント増加した。

また全てが、前回より回答の割合が増加した。このことは、子どもへの虐待等に対する関心が深まってきているのではないと思われる。



### (9. 外国人の人権について)

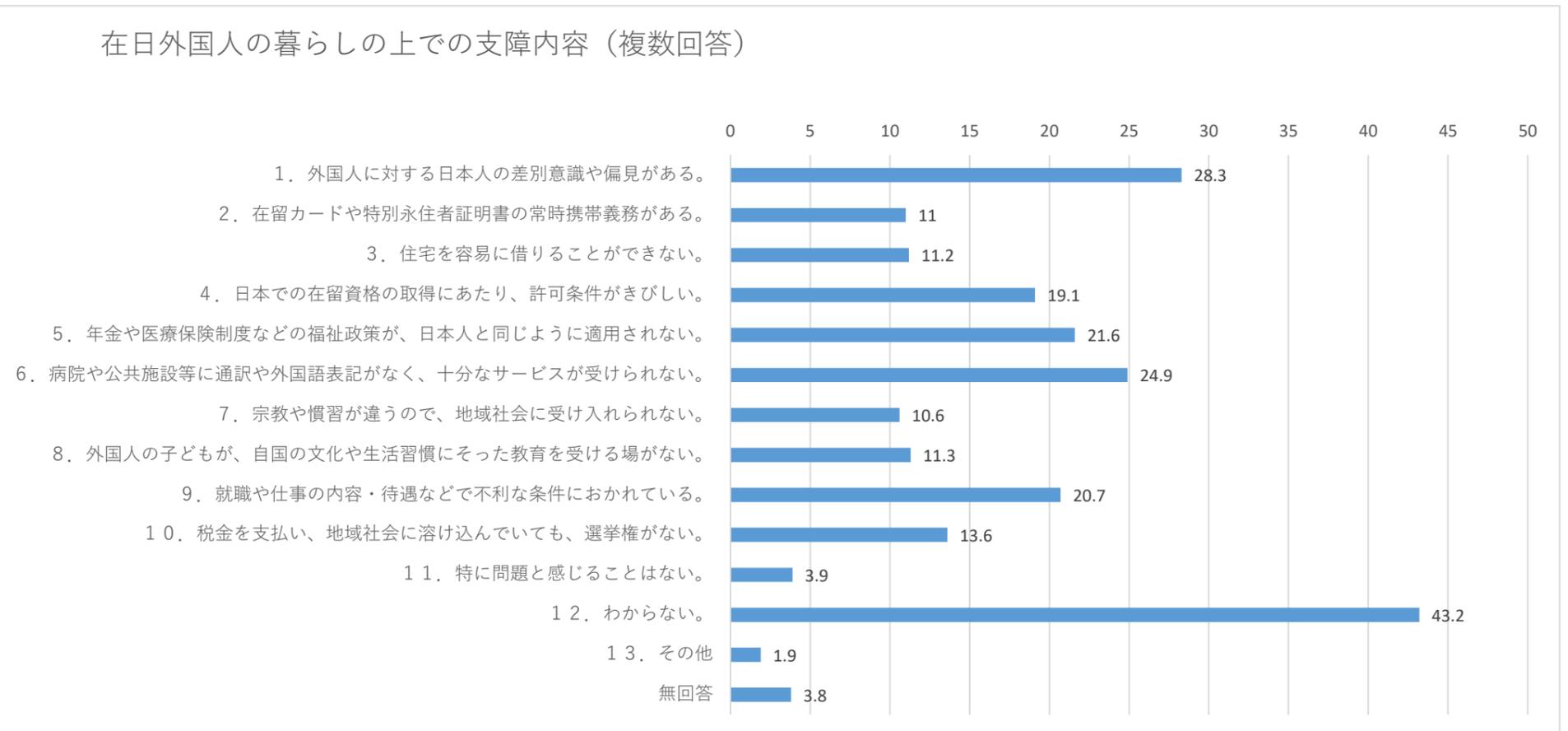
Q.24 日本で暮らす外国人にとって、支障となっていると思うのはどのようなことか。

あてはまるものをすべて選択

(本文P.56)

○「12.わからない。」という回答が一番多い。

他の人権問題と比べ、関心が低く理解が進んでいない可能性がある。



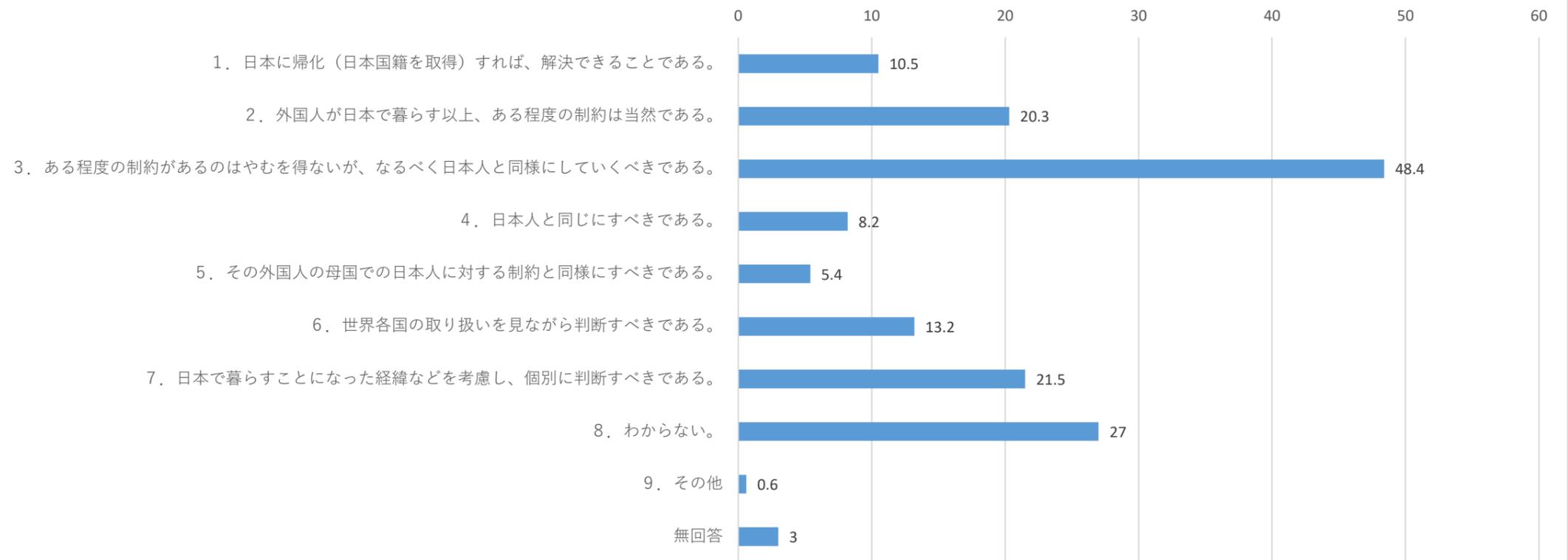
Q.25 日本で暮らす外国人にとって、在留カードの常時携帯義務等といった、制度上に制約があることについて、どう思うか。

考えに近いものをすべて選択  
(本文P.57)

○「3.ある程度制約があるのはやむを得ないが、なるべく日本人と同様にしていけばいい。」という回答が一番多い。

過去3年間の調査結果と同様であった。

在日外国人に対する制度上の制約（複数回答）



**(10. 個人のプライバシーについて)**

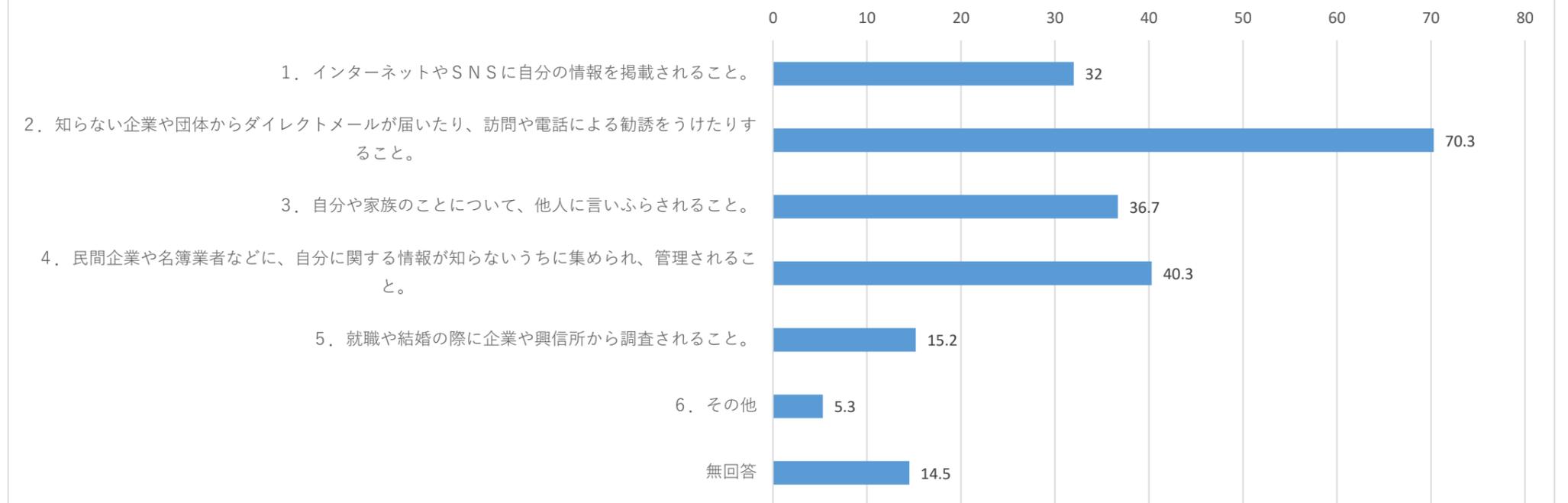
Q.26 個人のプライバシーに関して、どのような場合にプライバシーが守られていないと感じるか。

あてはまるものすべてを選択  
(本文P.59)

○「2.知らない企業や団体からダイレクトメールが届いたり、訪問や電話による勧誘を受けたりすること。」という回答が一番多い。

前回の調査結果と同様だった。

プライバシーが守られていないと感じるとき（複数回答）



Q.27 就職や結婚時に、出身地など、本人の人柄や実力とは関係のないことがらを調査することについて、どう思うか。

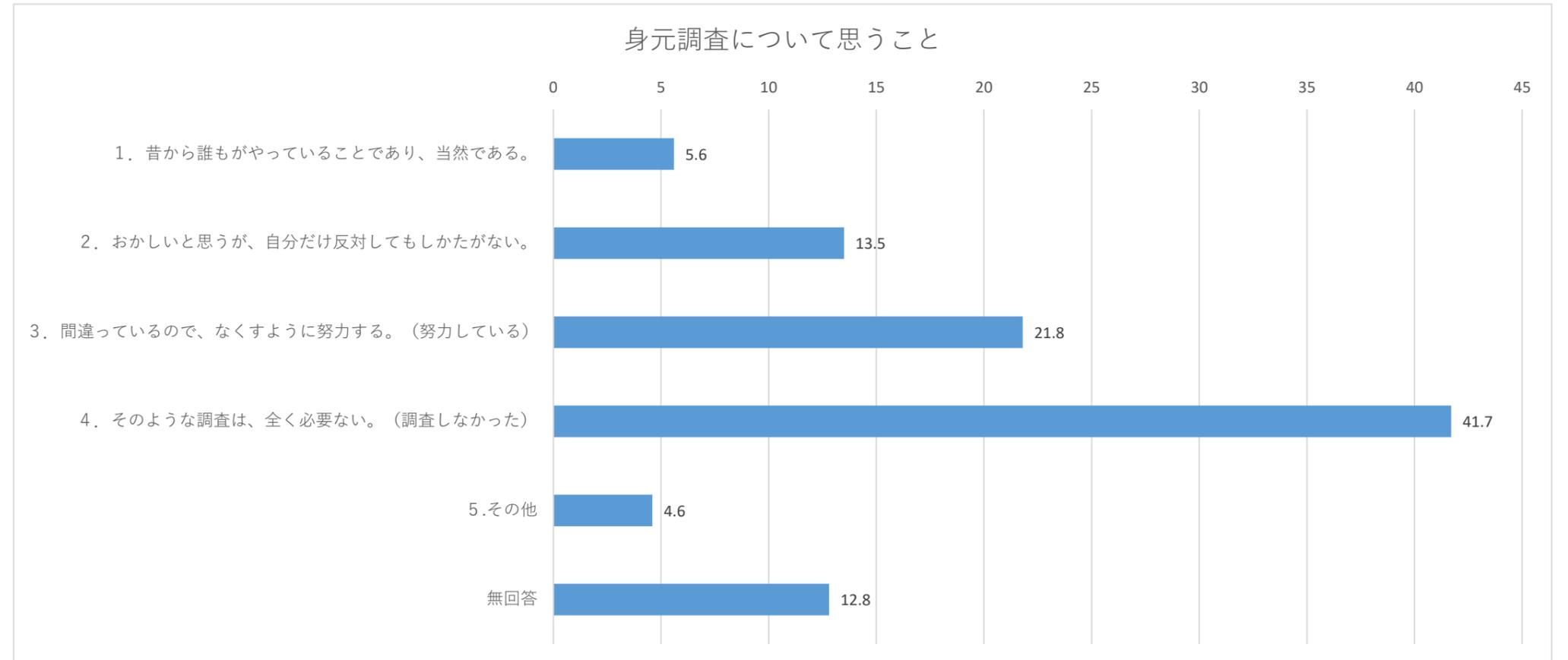
考えに近いもの1つ選択

(本文P.60)

○「4.そのような調査は、全く必要ない。(調査しなかった)」という回答が一番多い。

しかし、「2.おかしいと思うが、自分だけ反対してもしかたがない。」と「1.昔から誰もやっていることであり、当然である。」という身元調査に肯定的な意見が19.1%となった。

身元調査を行うことは誤りである、という啓発を引き続き行っていく必要がある。



まとめ (意識調査の結果から)

○啓発活動については、多くの方が講演会や研修会などによる学習や、広報誌による啓発活動を希望されていました。さらにそのほか、回答を参考にしながら啓発を行っていきます。

○講演会等に参加したことの無い理由として、「そのような会があることを知らなかった」という回答が多かったことから、様々な機会を利用して、引き続き更なる周知を図っていきます。

○「部落差別は残っている」からこそ、同和問題に対して繰り返し学習をしていく必要があります。

○「同和問題を解決するためには、あなた自身どうしたらよいか」という質問に対して、「わからない」という回答が、年代別に見ても、どの年代に共通して一番多い回答でした。

人権・同和教育が目指すところは差別を見抜き、差別に負けない力を身に付けるとともに、一人一人が行動を起こして、差別的な周りの状況を変えていく力を養うことにあります。

「わからない」という回答を減らしていくために、一人一人が行動に移せるように、全町民に対して啓発を行っていきます。